賛助会員のお願い

公益財団法人パブリックリソース財団賛助会員のお願い

賛助会員として、弊財団の組織基盤強化にご支援くださいますようお願い申し上げます。

【賛助会員制度の概要】

①賛助会費の使途：賛助会費は、全額、弊財団の運営経費として活用させていただきます。

②お申し込み単位：（個人）1口 年1万円、（法人）1口 年10万円とし、何口でも可。

③弊財団の賛助会費は、税制優遇の対象となります。
お申し込みいただいた皆様には、税務申告用に弊財団発行の領収書を郵送でお送り申し上げます。

④賛助会員の特典：

- ご希望に応じ、寄付およびその他の社会貢献の方法について、個別相談の機会を活用いただけます（2回目以降は有料となる場合があります）。
- 弊財団のメーリングリストに登載し、メルマガ等で最新の情報をお届けいたします。
- 弊財団の出版物を優待価格で購入できます。
- 弊財団が主催、共催する研修会、セミナー等に優待価格で参加できます。

【お申し込み方法】

オンラインの場合

弊財団のホームページからオンライン寄付サイトGive One（ギブワン）へ移り、
Give Oneシステムで賛助会員にお申し込みいただけます。

銀行振り込みの場合

1.「賛助会員申込書」にご記入の上、以下にお送りください。
（「賛助会員申込書」は弊財団ウェブサイトからダウンロードいただけます）

公益財団法人パブリックリソース財団
メール：center@public.or.jp　　Fax：03-5540-1030

2. 最寄りの金融機関でお振込をお願いいたします。

PayPay銀行（銀行コード：0033）
はやぶさ支店（支店コード：003）
口座番号：普通預金　1872673
口座名義：公益財団法人　パブリックリソース財団寄付金口
フリガナ：ザイ）パブリックリソースザイダンキフキンクチ

公益財団法人パブリックリソース財団
〒104-0042　東京都中央区入船2丁目3-6 細矢ビル3階
［まずはお電話またはメールでお問い合わせください］
TEL：03-5540-6256　FAX：03-5540-1030
E-mail：center@public.or.jp　HP：www.public.or.jp

WEBサイト情報　パブリックリソース財団各WEBサイトでは、より詳しい情報をご覧いただけます。

公式WEBサイト
https://www.public.or.jp/

公式Facebookサイト
https://www.facebook.com/public.resources.foundation/

オンライン寄付サイト Give One（ギブワン）
https://giveone.net/

公式YouTubeチャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCiiXZTAFRaAI6D5hPfB86BA

編集：中村 未絵　デザイン：山田 健三

20th　Public Resource PRF

Public Resources Foundation

— 2025年度事業報告書 —



公益財団法人 パブリックリソース財団

目次

お礼とごあいさつ …… 03

パブリックリソース財団の歩み …… 04

パブリックリソース財団とは …… 06
- 数字で見る2025年度のパブリックリソース財団 …… 09

寄付推進事業について …… 10
- オリジナル基金® …… 10
- 「寄付適格認証団体データベース」による的確な寄付先の選定 …… 12

【活用事例①】団体選択（セレクト）型オリジナル基金® …… 12
【活用事例②】日本初のドナー・アドバイズド・ファンド「DAFあらた」 …… 14
【活用事例③】コーポレート・アクション募金®の募金先として …… 15
【活用事例④】オンライン寄付サイトGive One（ギブワン）による助成先として …… 16

オリジナル基金®のご紹介 …… 17
- 設置している基金 …… 17

人生の集大成、レガシーを残す寄付 …… 18
（遺言や相続による寄付をお考えの皆様へ）

共感基金～志の輪が広がる共感寄付・共感募金 …… 20
（寄付者の志に共感した方からのご寄付を受け付ける基金）

個人基金 …… 22
（さまざまな寄付者の想いを形にし、社会貢献を実現する基金）

企業基金 …… 25
（企業寄付や企業連携によって創設された基金）

休眠預金の活用 …… 29
（リサーチを踏まえた喫緊の社会的課題の解決に取り組む）

Special Thanks …… 31

組織体制 …… 34

決算報告 …… 35

お礼とごあいさつ

意志ある寄付で、
生命・人権・民主主義尊重の市民社会の創造を

2000年に私たちは、前身となるNPOパブリックリソースセンターを設立しました。その際に「パブリックリソース」＝“新たな公共”をつくる“共創・共益”の社会資源を開発することをミッションと定めました。「共生」を旨とした市民社会を目指す歩みのスタートでした。

四半世紀の間、私たちは、光の当たらない人々に寄り添いたい、社会の一隅を照らしたい、社会を少しでもよくしたい、そうした利他と共助の理想を持ち続ける人々と出会ってきました。その方々の意志ある寄付によって、たくさんの人たちを救うNPOの現場の人々、社会の周縁（しゅうえん）にあって苦しい暮らしを送りながらも明日への希望を持ち続ける子どもたちにも会ってきました。寄付は未来へとつながる一条の光であると痛感いたしました。

現在、地球の持続可能性が問われています。世界各地での戦禍は拡大し続け、海外のみならず日本においてすら核を含む武装強化を志向する動きが見られます。格差社会で広がる不安と不満を背景に、民主主義や人権といった価値の基盤が揺らいでいます。いま社会の分岐点にあり、私たちは寄付者とともに、共生社会を創造する市民の活動を支える「みんなの財団」として、持続可能な未来のために進むことをお誓いします。

「みんなの財団」宣言
誰もが参画できる開かれた寄付文化創造への誓い

2013年に公益財団法人となってから、私たちは、毎年5千～6千件台に及ぶ寄付をいただいています。より良い社会を創りたいという「意志ある寄付」です。これまでに創設した“オリジナル基金®”はのべ63基金。“共感寄付”の”ゆきぐにの未来基金”は10年を迎えました。

2026年1月、三井住友信託銀行との協働により、日本初となる“ドナー・アドバイズド・ファンド”「DAFあらた」をスタートさせました。25年にわたり構築してきた「寄付適格認証団体データベース」を基礎に寄付者が支援先を指定して寄付できる仕組みです。これによって、500万円からの寄付で、運用によって永続する基金を創設でき、寄付者自ら支援先を選定するインパクトギビングを実現できます。これまで勤勉に働き、資産を蓄積してきた人々が、未来への投資としての社会貢献を考えたときに活用可能な万人に開かれた寄付スキームです。

いずれも、日本の寄付シーンに新たな地平を切り拓くものです。人間の持つ「共生と分かち合いの心性（しんしょう）」によって孤立や分断を乗り越え、寄付者とともに新たな“日本型寄付文化”を創ってまいります。

開かれた永続型基金の存在は、弊財団が「永続」する宿命を負ったことを意味します。四半世紀はおろか、未来永劫に先駆的財団として存在し続けるために、組織基盤の強化と刷新に取り組んでまいります。

本アニュアルレポート（事業報告書）において、弊財団の2025年度の実績と、寄付者や協力者の皆様の声を取りまとめましたので、ご高覧ください。これまでご支援・協働下さった寄付者、支援者、NPO、社会起業家の皆様に心より感謝するとともに、引き続きのご支援、ご指導を皆様にお願い申し上げる次第です。

最後になりましたが、パブリックリソースセンター時代から弊財団を支え、導いていただいた評議員の跡田直澄さんが、2025年12月10日に逝去されました。ここに心からの哀悼の意を表しますとともに、謹んでお知らせ申し上げます。

2026年秋

公益財団法人パブリックリソース財団

代表理事　岸本 幸子（専務理事）

代表理事　久住　剛（理事長）

パブリックリソース財団の歩み

MISSION 意志ある寄付で社会を変える

VISION 誰もがもてるものの1%を、社会の前進のために使う姿を目指します

VALUE ❶寄付者基点 ❷社会の周縁から始まる変革 ❸社会的インパクト

主な出来事（社会、団体）

2000
NPO法人
パブリックリソースセンター
として活動開始

2008
公益法人改革

2011
東日本大震災、新寄付税制公布、特定寄付信託導入

2013
パブリック
リソース財団
公益認定を受け、
事業開始

2020
新型コロナ感染拡大
リモートワークの導入
オンライン助成システム開発

2023
財団設立10周年

2025
パブリックリソース
提唱25年

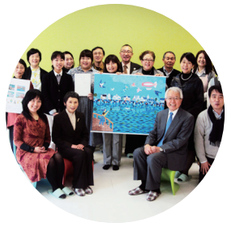
寄付の推進

2001
ウィメンズファンド
フォーラム開催

2002
オンライン寄付
GambaNPO.net（現
Give One）運営開始

2013
企業基金「未来につなぐふるさと基金」設置
生物多様性保全に関する市民参加を助成

2014
初の個人基金「井上圭子メモリアル基金」設置
30年後の福島をめざす「ふくしま未来基金」設置
遺贈支援の開始



2018
プライベートバンカー・
スクールにてフィランソロ
ピーに関するセッションを
実施

2016
「いぞう寄付の窓口」
加盟団体になる

2017
財団として最初の遺贈を受ける
個人寄付による奨学金支給型基金設置始まる
「大和証券グループ輝く未来へ こども応援基金」
「ゴールドマン・サックス基金」などを通じ、子ども
の貧困問題への助成開始

2019
不動産寄付の
受け入れ開始
運用型基金の設置
開始
「移民・難民支援基金」
で外国人支援開始

2024
コーポレート・アクション募金®、大和証券グループが運用開始
「女性リーダー支援基金」チャリティパーティの開催
「野村グループ基金」で社会・環境・文化の3分野を支援開始
遺贈寄付による運用型基金の創設

2025
「矢倉孝一 メモリアル基金」「井上圭子 メモリアル基金」
「アート＆ヘルス基金・Good Job!基金」共同で障害
者の芸術活動支援NPOフォーラムを支援
「阿久津弘子ひろがる基金」運用開始
100周年記念「三菱食品これからの100年基金」創設

2026
日本初のドナー・アド
バイズド・ファンド「DAF
あらた」を三井住友信託
銀行と協働で創設。運用
によって永続する開か
れたオリジナル基金®
初の自治体対象「共助型
自治体支援プログラム」
始動。寄付と共助ガバナ
ンスで地域課題解決へ

2016
全国初の信用組合に
よる社会貢献プラット
フォーム「魚沼の未来
基金」創設地域ぐるみ
でひとり親家庭を応援

2018
ゴールデンエイジの
社会貢献の新たな方
法「謝縁会」開催

2020
多数のコロナ対応緊急助成基金を設置
企業やポータルサイトと連携し、コロナ給付金寄付
プロジェクトを立ち上げ、寄付プラットフォームを構築。
2年間にわたり、医療・介護従事者や子育て家庭、また
アーティストや中小企業などを支援

2022
企業の社員・関係者向けオンライン寄付
“Original Giving Site” β版運用開始

2023
コーポレート・アクション募金®、
フコク生命が運用開始

調査・研究

2003
NPOの組織基盤強化
支援に関する調査研究

2007
米国における寄付関連
金融商品の動向と日本に
おける導入可能性に関する
調査研究

2011
SROIに関する調査研究

2016
「寄付を媒介とした多世代共創
モデルの提案」研究

2020
休眠事業として、住宅困窮者、フードバンク
支援を展開

2021
休眠事業として、
子どもシェルター
新設支援を展開



2023
信託とフィランソロピー
研究会発足

2023
JANPIAなどと共に
不動産研究会発足

2025
休眠事業として、子どもシェル
ター新設事業2、自立的資金分配
団体創生に向けた活動支援団体
事業を展開

社会的投資

2001
SRI（社会的責任投資）
のための企業の社会性
評価を開始

2010
サステナブル・インベストメント・
フォーラム開催



2019
休眠預金等活用法における資金
分配団体としての事業を開始
支援付き住宅事業、子ども支援
団体の組織基盤強化を展開

2022
休眠事業として、女性の包括的
自立支援を展開

NPOマネジメント、評価

2004
組織診断・NPOコンサル
ティングを開始

2005
NPOマネジメント支援コンサルタント養成講座開始

2012
東北の被災地
支援のSROI評価

2014
組織基盤強化事業のSROI評価

2016
寄付適格性評価手法の開発

2017
寄付適格性評価を開始

2020
オンラインによるNPOの組織診断の実施

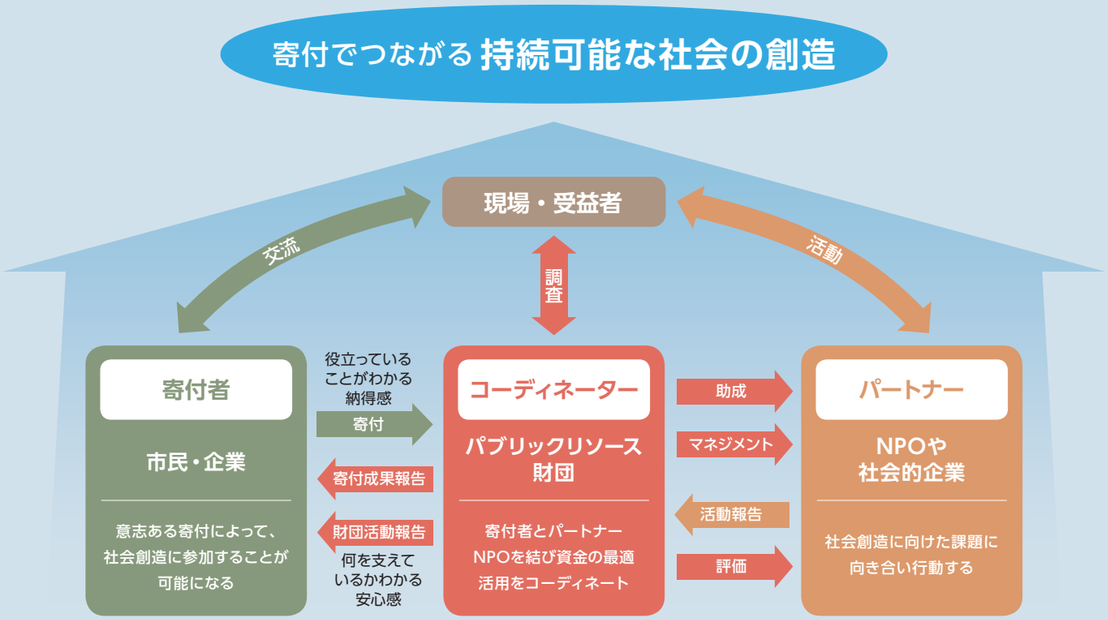
2022
NPO実践マネジメント入門通信講座リニューアル

私たちは、「あなたの財団」です

私たちは、懸命に生き、働き、他者を思いやる人々のための財団です。

- 寄付者の社会貢献の実現をサポートするフィランソロピー・コンサルタントとして、
- 寄付者の寄付を原資として、助成を行い、NPO・社会的企業を支援する助成財団として、
- NPO等の寄付適格性を測る評価・格付機関として、

寄付して終わりではなく、手ごたえを感じ、成果を見届けられる寄付を実現します。



私たちが向き合う“顧客”は寄付者です。寄付者の社会貢献の想いを、共感をもって傾聴し、解決すべき社会的課題を明らかにし、「オリジナル基金®」を創設して、NPOや社会的企業あるいは将来ある若者に助成金、奨学金という形で資金を届け、実現を希望される新たな価値と社会を創造していきます。
NPOや社会的企業などは、私たちの“パートナー”です。パートナーの活動を通じて、寄付者の想いを実現していくのです。
その活動の成果を寄付者にフィードバックするとき、寄付者には寄付を通じて自らの社会貢献を実感していただけます。

私たちのミッション



意志ある寄付で社会を変える

私たちは、誰の心の中にも、「誰かの力になりたい」という「まごころ」があることを信じています。ひとつの水滴が大きな波紋を描くように、ひとりの力、ひとつの寄付は小さくとも、よりよい社会を創りたいという意志ある人々や企業の寄付を結集し、最適の使途を実現することで、いのちと尊厳が守られる持続可能な社会を創造します。

私たちのビジョン



誰もがもてるものの1%を、社会の前進のために使う姿を目指します

今、日本では、人口減少・超高齢化とともに、世帯構成の変化、雇用形態の変化などの構造的な変化が進んでいます。地球環境問題の悪化に伴う自然災害の激甚化も起きています。他方で、個人資産の蓄積が進み、毎年相続による世代間資産移転は60兆円にのぼると推定されています。私たちは、誰もがもてるものの1%をよりよい社会のために投じる社会、本当に必要とするところに資金や資源が循環する社会の実現を目指します。

私たちが大切にする価値



1.寄付者基点

私たちは寄付者の想いに耳を傾け、寄付者の志を尊重します。

2.社会の周縁から始まる変革

小さき者、光が当たらない領域が発する新たな声に着目して、最も適切な寄付の使途を提案します。

3.社会的インパクト

寄付によって、社会的課題の解決や、新たな価値創造の実現を目指します。

私たちの特長

1.目利き力

20年にわたるNPOの組織診断手法の開発と実践、英国のNew Philanthropy Capital(▶P.13)の協力を得て開発した寄付適格性評価、年間のべ500件以上の助成対象団体等との交流を通じて培った「よい組織」「支援すべき組織」を見極める目が私たちの力です。

2.プログラム構築力

最終受益者（支援対象となる人々）の抱える課題とニーズ、社会経済環境、政策動向、NPOや社会的企業の活動等を踏まえ、社会課題の構造分析を行い、社会課題の解決に最も効果的な助成事業の設計を行い、寄付を最も有効に活用する方法を提案するプロフェッショナルです。

3.伴走力

資金提供をして終わりではなく、各分野の専門家やコンサルタントと協働し、NPOや社会的企業のガバナンスや組織基盤の強化、専門能力の向上につとめ、寄付の効果を最大化します。

4.対応力

幅広い分野の社会課題について、知見の蓄積と広範な専門家とのネットワークがあります。日本や世界が直面する幅広い社会的テーマに柔軟に対応し、自然災害、人道支援、パンデミックなどの緊急事態についても最も資金が必要とされるところにいち早く届ける仕組みをもっています。

私たちの重点事業



1. 「オリジナル基金®」の創設と運営

「オリジナル基金®」は、新規に財団を設立するのと同様の効果を、迅速、柔軟、低コストで実現できます。個人や企業の社会貢献の志を活かし、助成金、奨学金、顕彰などさまざまなプログラムを提供します。

2. 遺言や相続財産による遺贈の受け入れ



築いた資産や受け継いだ相続財産からのご寄付をお受けし、よりよい未来のために役立てるお手伝いをします。株式や不動産の寄付についても、みなし譲渡所得課税特例措置や信託の活用など各種の仕組みを提供します。



3. 金融機関、専門家との協働による新たな寄付スキームの推進

寄付先について希望を述べる「ドナー・アドバイズド・ファンド」、生前は自分のためにお金を使い死後に残余財産が寄付される「チャリタブル・リメインダー・トラスト」日本版など、新たな寄付スキームを開発します。

4. 寄付の裾野の拡大



オンライン寄付サイトGive One（ギブワン）の実績をもとに、企業の呼びかけによる新しい募金プログラム「コーポレート・アクション募金®」の仕組みを展開します。社員や顧客等と協働する寄付を推進し、寄付の裾野を広げます。



5. 「寄付適格認証団体データベース」にもとづく寄付先選定サポート

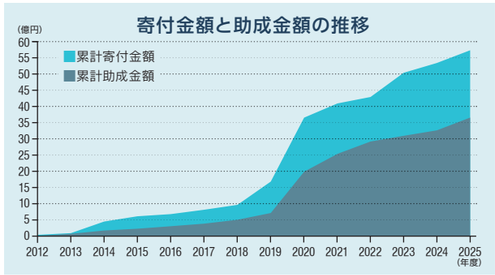
「信頼できる組織か」「活動が社会的インパクトを生むか」という二つの側面から、団体を審査し、認証登録。寄付先選定に必要な情報を提供することを通じ、「安心して寄付できる」「寄付によって社会を変えていく」を実現します。

数字で見る2025年度のパブリックリソース財団

（2026年3月31日現在）

寄付金額 344,521,997円

2013年1月に公益財団としてスタートして以来、14会計年度で累計57億4千万円を超えるご寄付をお預かりし、約36億7千万円を助成金として提供しています。



寄付件数 6,617件

多くの方々からお志のこもったご寄付をいただきました。このうち2,261件がオンライン寄付サイトGive One（ギブワン）を通じたオンライン寄付、4,356件がオリジナル基金®などへの寄付でした。

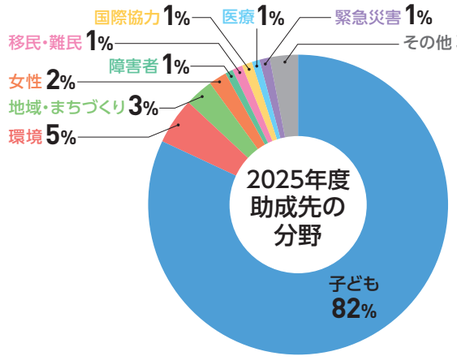
応募数（個人・団体） 599件

さまざまな助成プログラムの公募に対して、全国各地よりたくさんのご応募をいただきました。

寄付金からの助成金額 321,193,727円

（休眠預金活用制度による助成は含まず）

いただいたご寄付は、個人への奨学金やNPOなどの団体への助成金として提供されました。子どもや環境、地域・まちづくり、女性など幅広い分野の活動を後押ししています。



寄付適格認証団体数 275団体

組織審査とプロジェクト審査からなる寄付適格性評価による認証システムを開発し、信頼でき、かつ社会的インパクトを出せる団体のデータベースを構築しています。

助成対象数（個人・団体） 465件

（Give One による助成を含む）

全国各地の先駆的な非営利団体に助成金を提供しています。

設置基金数 41基金（2026年3月末現在）

多様なテーマをもった基金を続々と設立しています。これまでにのべ63基金が設立されました。今年度は5つの基金を新たに設立し、現在41基金が運営されています（うち企業基金は15基金）。

物品寄贈件数 34件

大和証券グループ サンタチャリティプログラムを通じて、34件の物品寄贈を行いました。

奨学生数 98人

地域の金融機関との協働や個人の方からのご寄付により、多くの学生を奨学生として支援しました。

休眠預金活用制度による助成金額 60,721,946円

休眠預金活用制度の資金分配団体として、2019年度より7つの助成プログラムに取り組んできました。今年度は1つの助成プログラムを運営しました。

分野	助成額（円）
女性	60,721,946

オリジナル基金®

※2020年7月13日付けで商標登録されました

あなたの想いを社会で実現するために

結婚記念、退職、古希や米寿、相続や遺言による寄付など、人生の節目に寄付をしたい。企業の新商品発表、周年記念事業などの折に社会貢献をしたい。そのような寄付者のさまざまな想いを形にする、「オリジナル基金®」を推進しています。

志を活かすオリジナルプログラムの設計

弊財団では、社会貢献したいという方のお志を、財団設立や公益信託の活用よりも、迅速かつ柔軟、効果的にかなえることのできる「オリジナル基金®」の設立をサポートしています。基金にはご希望の名称を付けられるほか、支援を希望する分野の指定など、ご寄付いただく方の想いを基金に表すことができます。

- 個人の方も、法人の方も創設いただけます。
- 弊財団へのご寄付は税制優遇の対象となります。
- 基金には、現金・有価証券・不動産などさまざまな資産を寄付していただけます（必要に応じて、租税特別措置法第40条の規定の適用を受けることができ、その場合はみなし譲渡課税が非課税となります）。
- ご希望の名称をお付けいただけます。
- 助成事業、奨学金事業、顕彰事業など多様な社会貢献の実施が可能です。
- まとまった金額のご寄付で基金を創設した場合には、複数年にわたる助成事業を展開することもできます。
- ご寄付を運用して、永続型基金とすることもできます（運用益は非課税）。
- ご希望によって、寄付者の基金設立に寄せる想いやご家族の歴史をパンフレットやビデオにまとめます。

オリジナル基金®には、大きく分けて2つの形があります

団体選択（セレクト）型

弊財団の有する「寄付適格認証団体データベース（▶P.12・13）」に登録された団体（275団体）の中から支援を希望される団体を選択して寄付する形式

企画公募型

希望される支援分野のリサーチから始め、助成プログラムを策定、支援先の団体を公募、審査会を経て支援先団体を決定し、助成を行う形式

「団体選択（セレクト）型基金」の支援先選定について

- 支援先は「寄付適格認証団体データベース」（▶P.12・13）掲載団体から寄付者が選ぶことができます。公募・審査会を経ず、短期間に助成先を選定できます。寄付者の方の支援先団体の選定を、寄付者の方の応援したいテーマについてのご希望を伺いながら、さまざまな情報を提供し、サポートいたします。
- 寄付の成果を、指定された方にご報告します。

「団体選択（セレクト）型基金」創設の流れ

1. 応援したいテーマや社会課題をお伺いします
2. 寄付適格認証データベース掲載団体から、候補団体をご提案します
3. ご寄付の活用計画にご同意いただきましたら、寄付金をご入金いただきます

（ご相談から 1〜3ヶ月）

4. 寄付者の方とご相談しながら、支援先団体を選択いただきます
5. 支援先への助成金等の入金を行います

（ご寄付から 2ヶ月程度）

6. 定期的に財団から活動・運営報告をお送りします

（助成金交付から適宜）

「企画公募型基金」の支援先選定について

- ご希望に沿って社会貢献プログラムを一から策定します。
- 支援先は公募により募集します。
- 第三者による審査会を設置します。
  基金を通じた支援先は、第三者によって構成される審査会が審査しますので、透明性が高く説明責任の明確な社会貢献ができます。助成先候補団体にきちんと公募情報が届くように広報ルートを開拓し、多方面から審議できる審査委員会を構成いたします。
- 寄付の成果を、指定された方にご報告します。

「企画公募型基金」創設の流れ

1. 応援したいテーマや社会課題をお伺いします
2. 社会課題の現状・支援ニーズ、政策やNPOの動向等を調査し、社会貢献プログラムをご提案します
3. 社会貢献プログラムにご同意いただきましたら、寄付金をご入金いただきます

（ご相談から 1〜3ヶ月）

4. 公募・審査等を行い、支援先を決定します
5. 支援先への助成金等の入金を行います

（公募開始から 3ヶ月程度）

6. 定期的に財団から活動・運営報告をお送りします

（助成金交付から適宜）

フィランソロピー・コンサルティング

～社会貢献の想いを形にする～

社会貢献を考える個人や企業の方のご相談にのるだけでなく、寄付や遺贈をサポートするお立場の弁護士や税理士等の専門家や金融機関がお持ちになるさまざまなご質問、ご要望にもお応えしています。お志の実現まで、相談、情報提供、企画提案、寄付の実施、社会貢献プログラムの実施まで、一貫したサポートを提供します。

- 想いを実現できる最適な寄付先はどこだろうか？
- オリジナル基金®を創設したい！
- 遺贈寄付にまつわるさまざまなご相談
- 不動産や株式などの資産寄付を考えている
- 弁護士や税理士など遺贈寄付に習熟した専門家を紹介してほしい！
- 既存の財団の改善や運営受託
- 助成プログラムの見直し、制度設計、実施支援
- 企業の社会貢献プログラムの設計や運営の受託
- 社員募金、社員ボランティア、プロボノプログラムを実現したい！
- 購買連動型寄付（コーズ・リレーテッド・マーケティング）の企画、実施支援など

ご提案する社会貢献活動の例

- NPOや社会的企業への助成金提供
- 個人に対する奨学金制度
- 個人や団体を顕彰する表彰制度
- ボランティアやスタディツアーの実施
- NPOや社会的企業の組織基盤強化のためのコンサルタント派遣や研修事業の実施
- 政策研究、アドボカシー、ネットワーキングの支援

「寄付適格認証団体データベース」による的確な寄付先の選定

PRF
パブリックリソース財団
寄付適格認証

1 寄付適格認証団体データベースとは

「寄付先を選んで今すぐ寄付したい」「まとまった寄付を基金にプールして関心のある分野の団体に寄付していきたい」「寄付の税制優遇を受けられるようにしたい」など、企業や個人の皆様の寄付に関するご要望に応えるために、信頼でき、かつ社会的インパクトを出せる寄付適格性のある団体及びプロジェクトのデータベースを構築しています。

寄付適格性評価を行い団体及びプロジェクトを認証登録している「寄付適格認証団体データベース」は、2002年から運用しているオンライン寄付サイトGive One（ギブワン▶P.16）の助成対象団体として20年以上にわたり毎年追加・更新を重ねて構築されてきた寄付適格性を持つ団体等のデータベースです。現在、認証を受けた275の団体310のプロジェクト（2025年度末現在）が、**寄付適格認証団体データベース**に掲載されています。

寄付適格認証団体データベース掲載団体は、①団体選択（セレクト）型オリジナル基金®、②ドナー・アドバイズド・ファンド「DAFあらた」、③企業がハブとなって共感寄付の輪を広げるシステム「コーポレート・アクション募金®」の助成対象団体、④オンライン寄付サイトGive Oneなど、寄付者の社会貢献の希望に応じ助成先の選定に活用されます。

SDGsのカテゴリーや活動分野によっても検索・絞り込みが可能です。

※どなたでも、オンライン寄付サイトGive Oneのサイトにおいて、このデータベースをご覧いただくことができます。
https://giveone.net/

【寄付適格認証団体データベースの活用事例①】

団体選択（セレクト）型オリジナル基金®

●中村窈窕子基金（▶P.18） ●じゅんき教育基金（▶P.19） ●謝縁教育基金（▶P.20） ●笑顔でつなぐ未来基金（▶P.27）など

2 寄付・助成に活用する流れ

寄付適格認証団体データベース
寄付適格性評価による認証登録された団体及びプロジェクトのデータベース

①	②	③	④
団体選択（セレクト）型オリジナル基金®による助成	ドナー・アドバイズド・ファンド「DAFあらた」を通じての助成	企業独自の社員・関係者限定のオンライン寄付「コーポレート・アクション募金®」を通じての助成	オンライン寄付サイトGive Oneを通じての助成

寄付者の希望に応じた助成先（団体、プロジェクト、分野）の選定

助成　助成

認証登録された団体、プロジェクト、分野への助成

3 寄付適格性評価による認証システム

寄付先を選ぶ時に重要なのは、信頼できる組織であることに加えて、社会創造に効果的に取り組む団体であることです。弊財団ではそうした団体を発掘し認証するために、NPCのフレームワーク（※）をベースとした寄付適格性評価による認証システムを開発し、毎年公募・審査を行っています。また、寄付適格認証団体データベースにおいては、反社会性等のコンプライアンスチェックに関して、外部データベース及び第三者機関を活用しています。

※NPCのフレームワーク
イギリスのシンクタンクであるNew Philanthropy Capitalが開発した、優れたNPOであるかを確認するためのフレームワークです。取り組むべき社会課題に対して、効果的な事業を行う組織であるか（社会的インパクト）、寄付を確実に活かす組織であるか（信頼性）、という2つの視点で4つの領域（目的、効果的な実践、人、財政と運営）が構成されています。

寄付適格性評価の項目

〈領域1〉目的	①ビジョンとミッションはニーズに応えているか ②目標を達成するための優れた戦略を持っているか	③活動は戦略を反映しているか ④成果を出しているか
〈領域2〉効果的な実践	⑤学び改善するために情報を活用しているか ⑥自分たちが達成することは何か、明確になっているか	⑦正しく評価を行っているか ⑧評価の結果を公開しているか
〈領域3〉人	⑨優れたリーダーシップがあるか ⑩優れた人材を採用し、やる気を引き出しているか ⑪ガバナンスはしっかりしているか	⑫プログラムの利用者も団体の活動にうまく巻き込んでいるか ⑬健全な組織文化があるか
〈領域4〉財政と運営	⑭必要な資金を十分に確保できているか ⑮財政運営は優れているか	⑯業務管理は優れているか ⑰すべてのリソースを効率的に活用できているか

認証の方法

団体応募 ▶

組織審査委員会
- 粉川 一郎氏（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授、同大学グローバル・データサイエンスコース主任）
- 鴨崎 貴泰氏（NPO法人日本ファンドレイジング協会常務理事）
- 長谷川 雅子氏（一般財団法人CSOネットワーク理事・事務局長）

▶

プロジェクト審査委員会
- 渡辺 元氏（公益財団法人助成財団センター理事）
- 古瀬 繁範氏（NPO法人地球と未来の環境基金理事長・事務局長）
- 西田 治子氏（一般社団法人Women Help Women代表理事、オフィス・フロネシス代表）

▶ 登録決定

【寄付適格認証団体データベースの活用事例②】

DAFあらた
Donor-Advised Fund "ARATA"

寄付文化の新たな地平を開く、日本初のドナー・アドバイズド・ファンド「DAFあらた」

より多くの方が「永続型の基金」をもち、社会への想いを自由に反映できる仕組み

2026年1月、弊財団は日本初のドナー・アドバイズド・ファンド（Donor-Advised Fund:DAF）である寄付プログラム「DAFあらた」の運用を開始しました。



「DAFあらた」について
https://daf-arata.public.or.jp/

DAF（ドナー・アドバイズド・ファンド）とは

ドナー・アドバイズド・ファンド（寄付者助言基金：Donor-Advised Fund、以下DAF）は、米国で100年近い歴史をもつ寄付の方式です。1990年代から急速に認知度が高まり、2023年時点の総資産は約37兆円に達するなど、市民が主体となって社会課題の解決を担うための重要な手段となっています。寄付された資産の法的所有権は運営団体（財団等）に帰属しますが、寄付者はその分配（助成先）や運用に関し、継続的に助言を行う権限を持つことが特徴です。

DAFあらたとは

三井住友信託銀行
SUMITOMO MITSUI TRUST BANK

「DAFあらた」は、三井住友信託銀行と弊財団の協働運営による「日本型ドナー・アドバイズド・ファンド」＝「運用×セレクト型オリジナル基金」です。弊財団が運用する寄付適格認証団体データベースから厳選された支援先団体リストの中から、寄付者の希望に沿って、社会的インパクトを生む団体を指定できる、日本で唯一のドナー・アドバイズド・ファンドです。

DAFあらたの始め方と特徴

寄付をする

- 500万円からオリジナル基金®を開設でき、拠出時に税制優遇を受けられます。
- 基金の承継者を指名することができます。ご自身の亡き後も、社会貢献の志を永続的に実現できる仕組みです。

運用する

- 運用益は非課税で基金内へ再投資されます。

支援する

- 寄付を実行した後、実際の支援先（助成先）選定は後から時間をかけてじっくり行う「寄付と助成のタイミングの分離」が可能です。
- 厳選されたリストから支援先を選び、任意の金額を助成する「インパクトギビング」を実現できます。
- 基金を通じて支援できる対象は、民間の7つのテーマ領域にまたがる14団体および共助型自治体プログラム1団体となります。

詳細はこちらから ▶
https://daf-arata.public.or.jp/support

コラム① 第1号基金「謝縁教育基金」が誕生

2026年3月、若者への教育や居場所づくりを支援する「謝縁教育基金」が開設。「恩送り」を願う寄付者の想いから生まれた「DAFあらた」の第1号基金です。

コラム② 共助型自治体支援プログラムの支援先が決定

寄付を原資に自治体の課題解決を支える「共助型自治体支援」プログラムを創設。初の支援先として「鎌倉スクールコラボファンド活用事業」を採択しました。

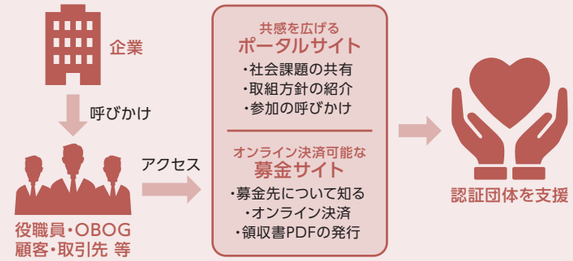
【寄付適格認証団体データベースの活用事例③】

コーポレート・アクション募金

コーポレート・アクション募金®の募金先として

新しい社会貢献のスタイル「コーポレート・アクション募金®」の提案

「コーポレート・アクション募金®」は、企業の呼びかけをきっかけに、社員や顧客、取引先などが専用のオンライン募金サイトを通じて社会貢献に参加できる募金プログラムです。企業がハブとなって“共感募金”（▶P.20）の輪を広げる新しい社会貢献の仕組みです。
コーポレート・アクション募金®の募金先は、「寄付適格認証（▶P.12・13）」を受けた団体が行う活動です。



コーポレート・アクション募金® 導入のメリット

①「社会貢献に参加したい」という社員等のニーズに対して、募金という参加しやすい方法を提供
②企業とSDGsのリアルな切り口をつくる積極的な社会貢献を可能に
③自社独自の社会課題への取り組みの明確化による、社員のモチベーションとロイヤリティの向上
④企業の社会的なブランドイメージを構築し、消費者からの商品やサービスへの共感や肯定的な反応を獲得
⑤戦略的な社会貢献への取り組みを企業の魅力のひとつとし、投資家への重要なアピールに

コーポレート・アクション募金®について
https://www.public.or.jp/ca-bokin

コーポレート・アクション募金®の導入事例

導入事例① フコク生命THE MUTUAL基金
創業100周年に“共感基金”を創設

フコク生命 THE MUTUAL

フコク生命 THE MUTUAL基金は、富国生命保険相互会社の創業100周年を機に、困難に直面する子どもたちとその家族を応援するために創設されました。基金名の「MUTUAL」は相互扶助の精神を表しており、コーポレート・アクション募金®を通じて、社員や顧客、取引先とともに支えあいの輪を広げています。

フコク生命 寄付サイトはこちら ▶

導入事例② ダイワ・フローリッシュ募金
一人ひとりの応援で、未来に大きな花を咲かせる

大和証券グループ

ダイワ・フローリッシュ募金は、大和証券グループの役職員・OB・OGが参加する募金プラットフォームです。関心に応じて寄付先を選択できるほか、サンタチャリティプログラムへの共感募金や、災害発生時の被災者支援募金にも活用されています。

ダイワ・フローリッシュ募金はこちら ▶
（会員登録・募金はできません）

【寄付適格認証団体データベースの活用事例④】
オンライン寄付サイトGive One（ギブワン）による助成先として

日本で最初のオンライン寄付サイト「Give One（ギブワン）」
～寄付は社会を変える第一歩。あなたの想いを信頼できるNPOにつなぎます～

持てるものの1%を寄付しよう Give One

Give Oneでは、寄付適格認証（▶P.12・13）を受けた団体を紹介しています。「世の中をよくしたい」という一人ひとりを応援する日本初のオンライン寄付サイトです。寄付者の皆さま（個人・法人等）からお預かりしたご寄付を、寄付適格認証を受けた団体の寄付プロジェクトに対してお届けします。

- 2025年度の寄付金額（クレジットカード・Pay-easy・コンビニ決済を通じた決済金額）：**12,581,429円**

Give One（ギブワン）の特徴

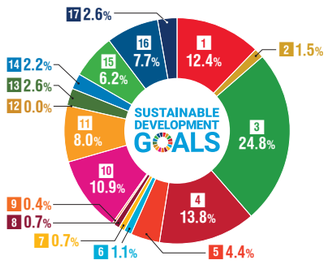
①Give Oneでのご寄付は、すべて寄付金控除等の税制優遇の対象となります
②寄付適格認証をクリアした団体を掲載しているため、安心して寄付することができます
③団体の運営への寄付ではなく、団体が取り組むプロジェクトへの寄付となります
④寄付先は、SDGsカテゴリーやキーワード、活動分野などから検索することができます
⑤決済方法は、クレジットカード・Pay-easy・コンビニ払いから選択いただけます（※クレジットカード決済のみ継続寄付が可能）
⑥掲載団体は、年に1回以上、活動レポートを掲載し、寄付者の皆様に対して活動状況の報告を行います

寄付適格認証団体とSDGsカテゴリー

- 2025年度末現在の認証団体数は、275団体
- 掲載されている寄付プロジェクト数は、310プロジェクト（※適宜変更あり）
- 寄付適格認証団体の持続可能な開発目標SDGsは、グラフ（下図）の通り

掲載されている寄付適格認証団体の紹介（一例）

SDGs	団体名	寄付プロジェクト名
1 貧困をなくそう	NPO法人 沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい	沖縄の子どもの未来をつくる奨学金プロジェクト
3 すべての人に健康と福祉を	NPO法人メディカル指南車	疾患の見落としによる重症化や死亡事故を防止します
3 すべての人に健康と福祉を	NPO法人くまもと相談所	困難な問題を抱える女性たちが本来持っている力を呼び起こし その魅力を最大限に活かすことができる支援事業
4 質の高い教育をみんなに	一般社団法人神戸みらい学習室	「すべての子どもに、等しく教育の機会を。」 さまざまな事情を抱えた中高生に対する無料学習支援
5 ジェンダー平等を実現しよう	認定NPO法人ピッコラーレ	「誰にも頼れない」妊娠をなくしたい。相談から途切れない支援を一緒に。
10 人や国の不平等をなくそう	認定NPO法人CALL4	より多様で公正な社会のために「公共訴訟」と市民を繋ぐ
11 住み続けられるまちづくりを	NPO法人さくらんぼ	孤立を断ち切る“暮らしの支援”～子ども・若者や家庭に安心の食と住まいを
14 海の豊かさを守ろう	一般社団法人グリーンピース・ジャパン	プラスチックごみを海からなくそう
17 パートナーシップで 目標を達成しよう	一般社団法人BLP-Network	リスクマネジメントを活用したNPO等の基盤強化事業



1 貧困をなくそう
2 飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8 働きがいも 経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公平をすべての人に
17 パートナーシップで 目標を達成しよう

オンライン寄付サイト Give One
https://giveone.net/

設置している基金（2026年3月末現在 全41基金）

※五十音順

個人基金 ／ 遺贈・相続財産からのご寄付によって創設された基金

- 阿久津弘子ひろがる基金（仮称）…… ひとりでも多くの恵まれない環境下にある子どもたちに救いを
- 一柳ウェルビーイングライフ基金 …… 人が尊厳をもって心豊かな生活を送り、生ききることを目指す活動を支援
- 井上圭子メモリアル基金 …… アートの力で人生を豊かにする活動を支援
- 佐渡水仙基金 …… 医療系人材の育成を願って設立された基金
- じゅんき教育基金 …… 相続した不動産を原資に困難を抱える子どもの教育を支援（▶P.19）
- 中村窈窕子基金 …… 子どもたちが愛されていると実感できる活動を行う団体を支援（▶P.18）
- NOBUKO基金 …… 困難を抱える子どもや困難を抱える家庭に育つ子どもたちを支援
- 富士子基金 …… 福島市のひとり親家庭や児童福祉施設出身の学生の医療資格取得を支援
- 武藤敏基金 …… 海を守る活動、問題を抱える子どもたちの支援活動を行う団体を支援
- 森山秀男メモリアル基金（仮称）…… 遺贈による永続型の地域づくりを支援

個人基金 ／ さまざまな寄付者の想いを形にし、社会貢献を実現する基金

- アート＆ヘルス基金・Good Job!基金 …… 福島市のひとり親家庭や児童福祉施設出身の学生の医療資格取得を支援
- I.H.K基金 …… 看護師取得を目指す児童養護施設や里親家庭で育った女性を応援
- 池田真市 子ども食堂 …… 全国の子ども食堂を応援し、子どもたちの食卓と居場所を支える（▶P.19）
- 移民・難民支援基金 …… 外国籍や外国にルーツをもつ人々の環境改善に取り組む団体を支援（▶P.23）
- 上村清子＆幸男結核予防基金 …… 結核の予防や治療・研究に取り組む団体を支援
- 感動体験支援基金 …… 貧困の連鎖の解消を目指し、子どもたちへの感動体験の提供を支援（▶P.22）
- 謝縁教育基金 …… 未来を担う世代への恩送りとして、若者の教育や人材育成を支援（▶P.20）
- 白い鳥ひと粒基金 …… 難民の背景を持つ若者の日本の高等教育機関修学を支援（▶P.24）
- 匿名基金A …… 光の当たらない被害者として取り残されている子どもたちを支援（▶P.23）
- ゆーじ基金ひとり親支援 …… 静岡県のひとり親医療従事者家庭の高校進学を支援
- ゆーじチャレンジ基金 …… 静岡県の児童養護施設や里親家庭で育った若者の社会的自立を支援（▶P.24）
- Y's ファンド D&I基金 …… D&I社会の考え方を広げる、新たな試みへのチャレンジを支援（▶P.22）
- 矢倉孝一メモリアル基金 …… 障害者の芸術活動の現状と課題を探るフォーラム等の開催を支援（▶P.19）

個人基金 ／ 寄付者の志に共感した方からのご寄付を受け付ける基金

- 塩沼亮潤 大阿闍梨基金 …… 厳しい暮らしに直面している子どもや生活困窮者を支援（▶P.21）
- 女性リーダー支援基金～一粒の麦～ …… 意思決定の場に女性を増やすため次世代の女性リーダーを支援（▶P.21）
- ふくしま未来基金 …… 福島の30年後を見据えたまちづくりを支援

企業基金 ／ 企業寄付や企業連携によって創設された基金

- 笑顔でつなぐ未来基金 …… 寄付金つきQUOカード・QUOカードPayで日本の子どもたちを笑顔に（▶P.27）
- エプソン社会の幸せ支援基金 …… 貧困の解消、子どもの支援、女性や社会的弱者の経済的自立を支援（▶P.27）
- MHジャパン緊急災害支援基金 …… 緊急災害にスピーディーに対応する
- ゴールドマン・サックス基金（ゴールドマン・サックス・ギブズ）…… 教育支援から子どもの貧困問題を解決する（▶P.26）
- ゴールドマン・サックス地域協働型子ども包括支援基金（ゴールドマン・サックス・ギブズ）…… 地域協働型子ども包括支援の継続的実践を支援（▶P.26）
- 大和証券グループ サンタチャリティプログラム …… 恵まれない子どもたちに社員の寄付でプレゼントを贈る
- 大和証券グループ未来応援ボンド こども支援団体サステナブル基金 …… 災害時等にも継続的な支援を届けられるよう組織のレジリエンスを高める
- ノーリツ鋼機グループ基金 …… 貧困・芸術文化分野の課題解決を支援
- 「野村グループ基金」みらい助成プログラム …… ①社会の明日のため ②環境課題解決 ③文化発展　3分野を支援（▶P.28）
- フコク生命 THE MUTUAL基金 …… 困難に直面する子どもたちやその家族を支援
- 三菱食品 これからの100年基金 …… 子ども支援といのちをつなぐ食のサプライチェーン構築を支援（▶P.25）
- Music Cross Aid -ライブエンタメ従事者支援基金- …… エンタメを支えてきた技術者や団体を支援
- 未来につなぐふるさと基金 …… 環境保全活動の専門性や継続性を高めることを応援（▶P.28）
- ゆきぐにの未来基金（旧：魚沼の未来基金）…… 地域の未来を切り拓く人材や団体を支援（▶P.20）

テーマ基金 ／ 志を同じくした支援者とともに、テーマを決め皆でつくる基金

- あい基金 …… 誰もが能力を発揮できる社会を目指して地域課題に取り組む女性を支援

人生の集大成、レガシーを残す基金

遺産や相続による寄付をお考えの皆様へ

生きた証として

人生のゴールデンエイジにさしかかり、人生を振り返るとき、仕事の達成感、充実した家庭生活。ゴールデンエイジこそ、社会への貢献や人々への恩送りにお力を発揮いただくに最適なときではないでしょうか。これまでに培われた知見、資産、ネットワークを、社会をより良くするためにお使いいただくことは、人生の総仕上げとして欠かせません。

「ご自身の資産を遺言によって有益な活動を行う団体に遺贈したい」
「相続した財産を亡くなった家族を祝福する意味で特定の分野の活動に寄付したい」
「家族が残した不動産を寄付して社会に貢献したい」

有益な社会活動へご寄付いただくことで、ご自身の資産や相続された財産を、末永く次の世代の社会創造へ受け継いでいくことができます。財産を残すだけでなく、ご自身や亡くなった家族の想いを形にして後世に伝えていくことこそ人生の集大成として、生きてきた人生の証として、寄付は価値のある社会貢献ではないでしょうか。
遺贈や相続財産の寄付は、相続税対策としてもご活用いただけます。
相続人がなく国庫に納められた財産は2024年度に1,292億円。ご自身の財産をご自身の意向で社会に生かす方策をご相談ください。
「オリジナル基金®」(▶P.10・11)を活用すれば、末永く人生の軌跡やお名前などを後世まで伝えていくことも可能です。

「遺言・相続・不動産社会貢献センター」としてのサービス

弊財団では、遺贈や相続財産の寄付をお考えの皆様に次のようなサービスを行っています。ご本人のみではなく、弁護士・司法書士・税理士、金融機関などの専門家の皆様からもご相談を承っております。

- 遺言により寄付をなさりたい方へのご相談(遺言の書き方、寄付する分野など)
- 生前に「オリジナル基金®」を創設しておき、基金の運用をこの目で確かめて、将来はその基金への遺贈に備える
- 肉親から相続した不動産を寄付なさりたい方へのご相談

中村窈窕子基金 子どもたちが愛されている実感を得られるように

中村窈窕子基金は、相続人により故人の生前の教育者としての活動をたたえ記念するために、相続財産を活用し、故人の名前を冠して創設されました。故・中村窈窕子様の子どもや地域社会へのまなざしを引き継ぎ、子どもたちが愛されている実感を得られるような活動を進めているNPO法人等の民間非営利組織に対し資金助成を図り、その活動を支援することを目的とします。助成対象団体は、寄付適格認証団体(▶P.12)から本基金の目的に合致するプロジェクトを行っている団体を選定します。


おてらおやつクラブの活動の様子

助成金額……1団体10万円(3年間継続)
助成団体数……8団体
助成対象団体名(エリア)
- NPO法人ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY(東京都)
- NPO法人フェアスタートサポート(神奈川県)
- NPO法人ユースコミュニティー(東京都)
- 認定NPO法人おてらおやつクラブ(奈良県)
- 認定NPO法人長野サマライズ・センター(長野県)
- 認定NPO法人ポケットサポート(岡山県)
- NPO法人子どもセンター「パオ」(東京都)
- NPO法人秋田たすけあいネットあゆむ(秋田県)

池田真市 子ども食堂基金 食卓の温かさを子どもたちへ、そして未来へつなぐ

池田真市 子ども食堂基金は、「子どもたちに安心できる居場所と温かい食事を届けたい」という池田真市様のご意志のもと創設されたオリジナル基金®です。寄付適格認証団体(▶P.12)から、子ども食堂をはじめ、フードパントリーやフードバンクなど、子どもの食を支える活動に取り組む団体を選定し、助成を行います。また、池田様ご自身も当基金を遺言により遺贈先として指定されています。ご自身が亡くなった後においても、そのご意志を未来へつなぎ、長きにわたって子どもたちを支え続けることを可能にする仕組みです。

オンライン寄付サイト
Give Oneで寄付受付中

基金設立者の声


池田 真市様

これまでの人生で、多くの方の優しさや支えに助けられてきました。自分が受け取ってきたものを、自分の中だけで終わらせず、今度は子どもたちへつないでいきたい。その思いから基金を設立しました。私がいなくなった後も、遺贈を通じてこの基金から支援が未来へ続いていくことを願っています。

助成金額……800,000円
助成団体数……2団体
助成対象団体名(エリア)
- NPO法人レインボーリボン(東京都)
- 認定NPO法人とりで(山口県)

矢倉孝一メモリアル基金 障害者の芸術活動支援を目指して

矢倉孝一メモリアル基金は、矢倉健次様が「芸術活動は障害があっても個性を生かし、人格を認められる生き方ができる」ということに注目して、障害者の芸術活動を支援することを目的に設立されました。初年度は、「井上圭子 メモリアル基金」、「アート&ヘルス基金・Good Job!基金」との共同助成プログラムとして、障害者の芸術活動支援を行うNPO等の実践活動の実態と課題について の活動実例を紹介しながら、現状と課題を洗い出し、障害者の人生をより豊かにするための芸術活動振興の方向を見出すことを目的としたフォーラム等の開催に対して支援を行いました。

基金設立者の声


矢倉 健次様

重度知的障害者の兄の将来を案じながら逝った父の遺志に応えるため、障害の有無に関係なくみんなが共生できる社会づくりに貢献したいと考えました。そのために障害者アートは最適のツールの一つだと思います。新たな価値を生み出し、相互理解を深める試みに期待します。

助成金額……4,000,000円
助成団体数……1団体
助成対象団体名(エリア)
- 一般社団法人たんぽぽの家(奈良県)

じゅんき教育基金 不動産寄付により有価証券で運用する永続型基金

じゅんき教育基金は、相続財産によって創設されたオリジナル基金®で、亡くなられたご家族のご遺志に沿って、困難を抱える子どもの教育支援を行うことを目的にNPO等に資金助成をしています。本基金の寄付者からは現金ではなく、不動産によりご寄付いただきました。租税特別措置法40条(承認特例)を適用して受け入れたもので、弊財団でも初めての試みでした。受け入れた不動産は有価証券(約800万円相当)にして基金に組み入れ、その運用益を現金化して、上記の公益目的事業に活用する仕組みです。十分な運用益を確保できた場合は、寄付適格認証団体(▶P.12)から適切な団体を選定し、助成を行います。


キッズドアの活動の様子

共感基金 ～志の輪が広がる共感寄付・共感募金～

寄付者の志に共感した方からのご寄付を受け付ける基金

共感寄付

ゆきぐにの未来基金

地域の宝である子どもたちを、地域で育てたい

共感寄付受付中

広がり続ける“共感”の輪

ゆきぐにの未来基金では、新潟県のゆきぐに信用組合の組合員を中心とする地域の方や地元企業の皆様からのご寄付をもとに、地域の未来を担う人材に返済不要の給付型奨学金「信組ゆきぐに奨学金」を2017年度より給付しています。信用組合が組合員に呼びかけ“共感募金”を募り、共に地域に貢献する社会貢献プラットフォームを提供する取り組みは、本基金が全国初です。寄付者の方々には、基金に関する報告書や高校3年生による卒業文集をお配りし、さらなるご支援をいただいているほか、企業には奨学生対象の地元企業見学ツアーの受け入れ先にもなっていただいています。ゆきぐに信用組合をハブとして、“共感”を発端とした地域貢献は広がり続けています。

基金設立者の声



ゆきぐに信用組合　理事長
小野澤 一成様

本基金は見返りを求めない善意の寄付により成り立っており、お蔭様でその輪はどんどん広がっています。やはり日本人の心には本来助けあいの精神が宿っていることが証明されています。支援を受ける「子どもたち」も明るく元気に受け止めてくれており、感謝を忘れず、学業に励んでくれています。まさに“善循環”の仕組みが実現しています。このゆきぐにと同じような基金が誕生することを願っております。

ゆきぐに信用組合

[奨学金給付期間] 2025年3月～2026年3月（第9期）



奨学生を対象とした地元ツアーの様子

2017年～2025年の累計寄付金額 …85,573,813円
寄付金額 ……単年／9,518,552円
助成金額 ……6,630,523円（第9期・第10期）
奨学生数
第9期（2025年3月～2026年3月）：86名
第10期（2026年3月～2027年3月）：89名

謝縁教育基金

受けたご恩を次の世代に送り、自分が人生で大切にしてきた志を次の世に

PRF パブリックリソース財団 寄付適格認証

困難を抱える若者への教育支援や、不登校や発達障害の若者の居場所支援

［事業実施期間］2025年4月～2026年3月

角方正幸様の古希を迎えた節目にあたり、人生の夢をあたため合う場をつくりたいという思いから「謝縁会®」を開催し、これを機会に若者の教育や人材育成を支援する「恩送り基金」として「謝縁教育基金」が設立されました。「自身が生きてきた中で、多くの皆様からいただいたご恩を次の世代に送り、自分が人生で大切にしてきた志を次の世に遺したい」という思いにより、困難を抱える若者への教育支援や、不登校や発達障害の若者の居場所づくりに取り組むNPO法人等の活動を支援することを目的として、2020年度より助成金支援を行っています。



楠の木学園の活動の様子

基金設立者の声



角方 正幸様

私は、企業人・地域人・家庭人の「三位一体の人生」をモットーに生きてきました。振り返れば、ガンなど3度の大病も経験し、言葉には表せないような悲哀にも向き合ったこともあります。それでも、家族や友人の支えがあって、本当に豊かな人生を歩んでくることができました。皆様とのご縁に感謝し、基金を創設しました。

寄付金額 ……累計10,000,000円
助成金額 ……単年／1,000,000円
助成団体数 …2団体
（寄付適格認証団体（▶P.12）から選定）
助成対象団体名（エリア）
- 認定NPO法人Learning for All（全国）
- NPO法人楠の木学園（神奈川県）

女性リーダー支援基金 ～一粒の麦～

意思決定の場にもっと女性を

共感寄付受付中

女性リーダー支援基金 ～一粒の麦～

一人の女性の挑戦から、社会を変える力を

女性リーダー支援基金は、石川清子様の発案により設立され、女性の社会的地位向上とジェンダー平等の実現を目指して活動してきました。2024年からは上野千鶴子様が次の3年間を支えるご寄付を表明してくださったことを皮切りに、アンバサダーや審査委員、多くの寄付者の皆様に支えられる基金となりました。これまでの5年間で31名に、ひとり100万円の活動支援金を授与し、政治、教育、医療、IT、地方、文化、SRHR、社会福祉など、多様な分野で挑戦する女性を応援してきました。交流会や勉強会、メンター制度などを通じたつながりも生まれています。一人ひとりの挑戦を次の世代へつなぐため、これからも皆様とともに歩んで参ります。

基金設立者の声



石川 清子様

私の寄付がこれほど大きな反響を呼ぶとは想像できませんでした。しかしそれは、多くの人たちのこうした問題への関心の強さを示す証でもあります。“女性の社会的地位の向上”を図るため、女性リーダーを早急に着実に育てるべきだと考えています。若い皆様には“ガラスの天井”をつき抜け、思いを貫いてほしいと思います。

【支援実施期間】2025年11月～2028年12月（第5期生）



2025年度交流ミーティングの様子（品川女子学院様にて開催）

2021年～2025年の累計寄付金額 ……61,254,153円
※うち共感寄付21,254,153円
助成金額 ……単年／6,000,000円
応募者数……94名
支援対象者数……6名
第5期支援対象者（2025年度）
- 荒牧 順子 氏（株式会社ドアーズ/一般社団法人SAGAこどもホスピス）
- 小田原 のどか 氏（横浜国立大学/プレカリアートユニオン）
- 田中 柚希 氏（東京科学大学 博士後期課程/理化学研究所）
- 永野 ひろ子 氏
- 春成 カディージャ 氏（Harmony Sisters Network）
- 山本 蓮 氏（地方女子プロジェクト）

塩沼亮潤 大阿闍梨基金 ～ともに寄り添うプラットフォーム～

「慈しみ」の志に基づいて、ご恩返しの第一歩を

共感寄付受付中

厳しい暮らしを余儀なくされている人たちをケア・支援する団体を支援

［事業実施期間］2025年12月～2026年11月

塩沼亮潤大阿闍梨基金は、貧しさ、家庭の事情、災害など自分自身では選び取れない運命の中で、厳しい暮らしを余儀なくされている子どもや生活困窮者の人生を下支えする助けとするために、塩沼亮潤大阿闍梨からの寄付をもとに創設されました。また本基金は、創設者である塩沼亮潤大阿闍梨の「慈しみ」の志に共鳴・共感いただける皆様からの“共感寄付”を受け入れている点と、日本国内で甚大な災害等が発生した場合には、緊急助成を行う点が特徴です。これまでに3回の経常助成と1回の緊急助成を行い、全国の子ども食堂など計25団体への支援を行いました。



国際子ども食堂（松山さかのうえ日本語学校）

基金設立者の声



福聚山 慈眼寺住職
塩沼亮潤 大阿闍梨様

私も小さい頃、ご飯が食べられず大変な時期がありましたが、周囲の人々に助けられ、今日の自分がいます。基金での活動は、そのご恩返しの第一歩だと考えています。長いようで短い人生、大きいようで小さな地球です。このコミュニティの中で皆が助け合い、喜びを分かち合う、そんな社会になることを願っています。

寄付金額 ……累計13,864,728円
（2021年12月～2026年3月末時点）
助成金額 ……単年／2,993,660円
応募団体数 ……23団体
助成団体数 ……6団体
助成対象団体名（エリア）
- 網地島ふるさと楽好（宮城県）
- NPO法人学生団体スピカ（兵庫県）
- NPO法人トイミッケ（東京都）
- NPO法人那須こどもホスピスプロジェクト（栃木県）
- ヒカリへ（群馬県）
- NPO法人松山さかのうえ日本語学校（愛媛県）

個人基金

さまざまな寄付者の想いを形にし、社会貢献を実現する基金

Y'sファンド D&I基金

みんな違って、みんないい

ダイバーシティ&インクルージョン社会を生きる人材を育てる

[事業実施期間] 2025年4月～2026年3月

日本は深刻な人口減少の過程にあります。今後、日本社会は多様な人材を受け入れ共生する社会（ダイバーシティ&インクルージョン社会＝D&I社会）になると同時に、それぞれの置かれた立場の違いを理解し、互いの文化や風習を尊重する人材が育つことが望まれます。Y'sファンド D&I基金は、多様な個性を尊重し共生していくD&I社会の考え方を広げる新たな試みへのチャレンジを期待して2022年度に創設されました。高校生までの子どもたちを対象に、多様性とインクルーシブな視点の獲得を目指し、国際交流、教育、スポーツや音楽、ボランティア活動等の体験活動、場の提供などを行う、先駆的な活動を支援します。



未来図書館の活動の様子

基金設立者の声



基金設立者（匿名）

未だスタートアップの域を出ませんが、小は小なりに特色のある活動ができないものかと検討しております。今年度は過去に助成した全ての団体にお声掛けし活動報告会兼意見交換会を開催しました。我々の方針の見直しの点で参考になるご意見をいただくと共に、参加した団体間の情報交換や今後の協働等、実りある場を提供できました。

寄付金額 ……単年／5,000,000円　応募団体数 ……98団体
助成金額 ……4,000,000円　助成団体数 ……4団体
助成対象団体名（エリア）
- 認定NPO法人ミュージック・シェアリング（東京都）
- さっぽろレインボープライド実行委員会（北海道）
- NPO法人未来図書館（岩手県）
- NPO法人ウィーズ（千葉県）

感動体験支援基金

あらゆる子どもに、きっかけになる、感動体験をつくる

貧困の連鎖を断ち切るために、「体験の格差」解消を支援

[事業実施期間] 2026年2月～2027年1月

感動体験支援基金は、経済的に困難な状況下にいる子どもたちの「体験の格差（※）」に対し、多様な生き方・働き方を知り、自らの人生を自分自身で切り拓く力を得るきっかけとなる“感動体験”の提供を通じて、将来的な貧困状態の解消と世代間連鎖を断ち切ることを支援するために、平井一夫様からの寄付をもとに創設されました。2025年度（第4回）より、資金的支援と非資金的支援の両方を行う「スタートアップ枠」を新たに設けました。

※経済的に困難な状況下にいる子どもたちにおいては、十分な体験機会が得られず、その結果、非認知能力が育ちにくい可能性があり、将来的には自身のキャリアを描きづらかったり、考えにくい状況があるといえます。



あっちこっちでは子ども食堂でアート体験を実施

基金設立者の声



一般社団法人プロジェクト希望
代表理事　ソニー 元CEO
平井 一夫様

子どもの頃に心が揺れ動くような感動体験をすることは、「これがしたい」「こうなりたい」という希望を持つきっかけになります。それは人生を彩り、生き抜く力を育む大きな源泉となります。私のキャリアの礎となった数々の感動体験が私の人生をユニークなものにしてくれたように、ひとりでも多くの子どもたちにとって、希望ある未来への「きっかけ」となる感動体験を今後も提供していきます。

寄付金額 ……9,004,680円　応募団体数 ……68団体
助成金額 ……6,500,000円　助成団体数 ……4団体
助成対象団体名（エリア）
【通常枠】
- 認定NPO法人AYA（神奈川県）
- 認定NPO法人あっちこっち（神奈川県）
- NPO法人学習支援ルーピス（北海道）

【スタートアップ枠】
- NPO法人CURASCOPIUM（神奈川県）

匿名基金A

“光の当たらない被害者”の子どもたちを守る

社会的弱者である子どもの生命と暮らしと未来を守るために

[事業実施期間] 2025年4月～2026年3月

匿名基金Aは、一人の若者が、“光の当たらない被害者”として取り残されている子どもたちを救いたいという想いから創設したオリジナル基金®で、社会的に最も弱い立場にある子どもたちを守る活動に取り組む非営利団体を対象に資金助成を行い、社会的弱者である子どもたちの生命と暮らしと未来を守ることを目的としています。第2期は、生命に関わる障害を持ち、医療的なケアを常時必要とする「医療的ケア児」等に着目し、特に「医療的ケア児」等を支えるために活動する、家族を中心とした当事者による「中間支援組織」に対する支援を行います。



全国医療的ケアラインの活動の様子

助成対象団体の声



全国医療的ケアライン
代表
小山内 淳子様

ご支援をいただき心より感謝申し上げます。私たちは医療的ケア児者支援法の改正を追い風に、成人移行期の課題解決や「意思決定支援」を核とした地域実装を推進しています。組織の持続可能性を高めながら、重い障害があっても住み慣れた地域で尊厳をもって暮らせる社会へ向け邁進します。

寄付金額 ……累計8,000,000円
助成金額 ……単年／2,000,000円
助成団体数 ……1団体（活動継続団体から選定）
助成対象団体名（エリア）
- 全国医療的ケアライン（全国）

移民・難民支援基金

日本国内で外国籍や外国にルーツをもつ人々を支援

深刻化する移民・難民課題に向き合う団体を支援

[事業実施期間] 2025年10月～2026年9月

移民・難民支援基金は、日本国内で暮らす難民や、外国籍・外国にルーツをもつ人々の生活環境の改善を目的に、個人からのご寄付をもとに創設されたオリジナル基金®です。こうした分野に個人の寄付を活用して継続的に資金支援を行う取り組みは少なく、現場の多様なニーズに応える貴重な基金となります。本基金では、難民申請や在留資格、就労、教育、生活などに困難を抱える人々を支援する、民間非営利団体の活動を支えてきました。現場に寄り添い、必要な支援を届けることで、多様な人々が安心して暮らせる共生社会の実現を目指しています。



Harmony Sisters Network活動の様子

基金設立者の声



奈良県在住（匿名）

移民・難民を支援する団体に少しでも手助けしたいと、この基金を創設して7年。募集、選考、伴走、報告書作成等、パブリックリソース財団の協力を得てここまで続けてこられました。小さな基金ながら、毎年、予定団体数の5倍を超える応募があります。これは日本の移民・難民をめぐる状況が依然として厳しいことの反映ともいえるでしょう。目標の10年まであと3年。寄付を継続したいと思っています。

寄付金額 ……単年／4,000,000円
助成金額 ……単年／3,200,000円
応募団体数 ……23団体
助成団体数 ……5団体
助成対象団体名（エリア）
- NPO法人Mother's Tree Japan（東京都）
- NPO法人外国人ヘルプライン東海（愛知県）
- NPO法人難民自立支援ネットワーク（REN）（東京都）
- Harmony Sisters Network（群馬県）
- NPO法人RAFIQ（大阪府）

ゆーじチャレンジ基金
児童養護施設出身の若者の社会的自立を支援

夢や目標を実現し、豊かな未来を切り開いていけるように

[事業実施期間] 2025年4月～2026年3月

ゆーじチャレンジ基金は、児童養護施設や里親家庭（ファミリーホームを含む）で暮らす子どもたちが、自らの夢や目標を実現し、将来の社会的自立へと踏み出すための進学を支援する給付型奨学金です。2017年度の発足以来、高校卒業後に大学・短期大学・専門学校へ進学する際の費用を助成、特に、保育士や看護師などの国家資格をはじめ、将来の就労につながる資格取得や専門的な知識・技能の習得を目指す意欲ある若者を応援しています。本基金は、伊藤裕司様の「経済的な問題で能力を伸ばす機会を失っている子どもがいるなら、サポートしてあげたい」との思いを受け継ぎ、一人ひとりが希望する進路に挑戦し、自らの可能性を広げながら豊かな未来を切り開いていけるよう、継続的な支援を行います。


資格取得を目指して

寄付金額 ……累計12,000,000円超
助成金額 ……進学～卒業まで1,000,000円／人
応募者数 ……数名
支援対象者数 ……1名

基金設立者の声


医師
伊藤 裕司様

難しい時間を過ごしてきたとしても，進学のための資金さえあれば変えられる人生がある。その思いで基金を創設しました。生まれた環境に阻まれることなく、学びたいと願う若者が進学の夢を実現できる社会を願っています。

白い鳥ひと粒基金
次世代の子どもたちのために

難民として生き抜くことを決意し、一筋の希望の光をもって日本に渡ってきた、未来ある若者が、その将来を切り開くために

[事業実施期間] 2025年4月～2026年3月

白い鳥ひと粒基金は、寄付者・白鳥様が40歳のときに、急逝されたご主人の残された資金を原資として、幼い子どもたちを残して逝かざるを得なかった若きご主人、そしてその後の人生を生き抜いてきた寄付者ご自身の強い意志から、次世代の子どもたちに活かすために2022年度に創設されました。本基金を通じて、3つの支援分野にフォーカスしていきます。

①難民などの子どもの教育支援
②施設出身の子どもの教育支援
③障害をもつ人たちの芸術活動支援

まずは、このうちの1つである「難民などの子どもの教育支援」として、日本政府に対して難民申請中の若者に、日本の専門学校や大学等の高等教育を受けるための奨学金の給付を行いました。



寄付金額 ……累計5,000,000円
給付金額 ……単年／1,000,000円
奨学生数 ……2名
給付対象者 ※個人名のため非公開
- 奨学生A：大学生（4年制）
- 奨学生B：専門学校生（2年制）

基金設立者の声


白鳥様

ひと粒ひと粒の次世代の希望を大切に育てていきたいという思いから、資金的支援だけでなく、奨学生との対話やコミュニケーションを通じて、互いに思いを寄せ、心の通うプログラムにしていきたいと思っています。

企業基金
企業寄付や企業連携によって創設された基金

三菱食品 これからの100年基金
次の100年に向けて持続可能な社会の実現を目指す

感謝を力に、食で社会と子どもの未来を支える

[事業実施期間] ①2025年1月～2025年12月
[事業実施期間] ②2026年4月～2029年3月

三菱食品 これからの100年基金は、三菱食品株式会社の設立100周年を機に、「食」を通じて支えられてきた多くのステークホルダーへの感謝を形にするとともに、次の100年に向けて持続可能な社会づくりに貢献するために創設されました。「食は人と人をつなぎ、社会を育てる力である」という考えのもと、食を通じた社会課題の解決と子どもたちの健やかな成長を支援しています。


維新隊ユネスコクラブの活動の様子

社員参加と社会課題解決を両立する2つの助成プログラム

当基金の特徴は、社員一人ひとりの社会貢献への参加意識を高めることと、食に関する社会課題解決の両立を目指した2つの助成プログラムにあります（▶P.10–13）。

①「子どもたちへの支援部門」は、社員投票による「団体選定（セレクト）型」を採用しています。弊財団の寄付適格認証団体（▶P.12）を支援対象に、子どもに関する社会課題の解決を行う団体を支援しています。

②「いのちをつなぐ食のサプライチェーン構築・強化支援部門」は、各地のフードバンク等を対象に、「企画公募型」を採用しています。生活困窮者へ安定的に食を届けるためのサプライチェーン構築・強化を目的に、全国を対象に広く提案を募ることで、多様な地域課題や先進的な取り組みを発掘し、それぞれの地域に必要な支援を届けることを可能としています。

このように、当基金は、「団体選定（セレクト）型」と「企画公募型」の2つの手法を組み合わせることで、基金の理念と目的の実現を効果的に推進しています。

基金設立者の声


三菱食品株式会社
広報・ブランディンググループ
広川 香央梨様

三菱食品設立100周年を記念した施策の一環として、2025年に本基金を創設しました。本基金は、基金活動を通して「三菱食品らしさ」を示し、全てのステークホルダーに感謝をお伝えすることを目的としています。食は、人と人をつなぎ、社会を育てる力があると信じ、次の100年に向け、さまざまな取り組みを支援してまいります。

寄付金額 ……単年／87,500,000円
助成金額
①［子ども支援］……20,000,000円
②［いのちをつなぐ食のサプライチェーン構築支援］……49,992,000円
応募団体数
②［いのちをつなぐ食のサプライチェーン構築支援］……29団体
※［子ども支援］は寄付適格認証団体から選定）
助成団体数
①［子ども支援］……20団体
②［いのちをつなぐ食のサプライチェーン構築支援］……5団体
助成対象団体名（エリア）
①［子ども支援］
- 認定NPO法人キッズドア（東京都）
- NPO法人維新隊ユネスコクラブ（東京都）
- 認定NPO法人PIECES（東京都）
- 認定NPO法人日本IDDMネットワーク（佐賀県）
- NPO法人Learning for All（東京都）
- 認定NPO法人3keys（東京都）
- 公益財団法人東京都ひとり親家庭福祉協議会（東京都）
- NPO法人ブリッジフォースマイル（東京都）
- 認定NPO法人芸術と遊び創造協会（東京都）
- 認定NPO法人CAPセンター・JAPAN（大阪府）
- NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所（茨城県）
- 認定NPO法人フローレンス（東京都）
- NPO法人インターナショナル・フォスターケア・アライアンス（東京都）
- NPO法人JAMネットワーク（神奈川県）
- NPO法人バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター（東京都）
- NPO法人チャイボラ（東京都）
- 認定NPO法人みらいの森（東京都）
- 認定NPO法人日本クリニクラウン協会（大阪府）
- 認定NPO法人チャリティーサンタ（東京都）
- 公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を（東京都）

②［いのちをつなぐ食のサプライチェーン構築支援］
- NPO法人キリンこども応援団（大阪府）
- 認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン（東京都）
- 一般社団法人東北フードバンク連携センター（宮城県）
- NPO法人フードバンクかごしま（鹿児島県）
- 認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン（福岡県）

ゴールドマン・サックス基金
ゴールドマン・サックス地域協働型子ども包括支援基金
（ゴールドマン・サックス・ギブズ）

Goldman Sachs Gives

地域に合わせた包括支援で 子どもの貧困問題を解決する

子どもたちを支える地域包括支援モデルの創出

ゴールドマン・サックス基金は、2018年にゴールドマン・サックス証券株式会社の持田昌典社長（当時）のイニシアチブにより設立されました。本基金では、寄付適格認証団体である認定NPO法人Learning for All（以下、LFA）に対して累計約7億円の支援を継続しています。LFAは全国5地域において、行政、学校、企業、地域住民など多様なステークホルダーと連携しながら、「つながり」「学びの環境」「育まれる環境」を整備し、子どもたちの生活圏に必要な支援や機会が切れ目なく提供される「地域協働型子ども包括支援」モデルの構築を推進してきました。さらに、その全国展開に向けて、支援リソースの開発やネットワークの構築だけでなく、政策提言にも取り組み「児童育成支援拠点事業（こども家庭庁）」の事業化につなげました。

地域の中核団体育成による全国展開の推進

こうした実践を全国へ広げることを目的として、ゴールドマン・サックスの寄付をもとに、ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金を設立しました。本基金は、地域の実情に応じて行政や学校との連携を深め、民間の地域ネットワークを活用しながら子ども支援体制の構築や組織基盤の強化に取り組む団体を対象に、3年間にわたる支援を実施しています。助成終了時には、各団体が地域の子ども支援分野における中核的な役割を担い、地域全体を視野に入れた仕組みの変革を牽引することを期待しています。

当基金は、弊財団がLFAと協働で運営・活動するもので、助成対象団体には、弊財団による資金支援とLFAによる非資金的支援（事業実施・体制構築等への伴走支援、研修の実施等）が提供される点が特徴です。これにより、各地域における持続可能な子ども包括支援の仕組みづくりと、その全国的な普及を後押ししています。

助成対象団体の声



認定NPO法人 Learning for All
代表理事
李 炯植様

本基金にご支援いただいたおかげで、2018年から7年間、子どもたちへの直接支援に加え、組織基盤の強化や他団体への支援活動にも取り組むことができました。「こどもの貧困」は1団体での解決が難しい課題ですが、企業様や財団、全国の支援団体と連携しながら、引き続き成果創出と全国展開を目指して活動を進めてまいります。

[事業実施期間]①2018年4月～2027年3月
[事業実施期間]②2024年9月～2027年3月



うみのこてらすの活動の様子



えんがおの活動の様子



こども∞感パニーの活動の様子



ヒミツキチの活動の様子

①「ゴールドマン・サックス基金」

助成金額 ……単年／116,132,063円
助成団体数 ……1団体
助成対象団体名（エリア）
- 認定NPO法人Learning for All（東京都）

②「ゴールドマン・サックス地域協働型子ども包括支援基金」

助成金額 ……単年／24,000,000円（2025年度分）
助成団体数 ……4団体
助成対象団体名（エリア）
- NPO法人うみのこてらす（徳島県）
- 一般社団法人えんがお（栃木県）
- 認定NPO法人こども∞感ぱにー（宮城県）
- NPO法人ヒミツキチ（宮崎県）

※全て2024年度からの継続助成

エプソン社会の幸せ支援基金

持続可能な「社会の幸せ」の実現を目指して

EPSON

貧困の解消、子どもの支援、女性や社会的弱者の経済的自立を支援

[事業実施期間] 2025年6月～2026年5月

エプソン社会の幸せ支援基金は、SDGs達成や持続可能でこころ豊かな社会づくりに積極的に取り組み、「社会の幸せ」を創造していくために、セイコーエプソン株式会社によって創設されました。ひとり親世帯や女性、ヤングケアラー等の支援をするNPO等に対して助成金を支給し、持続可能な「社会の幸せ」の実現を目指します。同社が主な拠点を置いている8都道府県を支援対象とすることで、企業の地域貢献を可能としている点も特徴です。

基金担当者の声



セイコーエプソン株式会社
人的資本・健康経営本部 総務部・社会支援
才田 文子様

本基金は、社会に喜ばれることを私たちの喜びとし、エプソンを支えてくださる地域に少しでも幸せをお届けすることを目指し創設しました。その想いを形にするため、パブリックリソース財団様の結いの強さに期待し、パートナーとして伴走していただいています。信州から世界を豊かに彩る私たちのパーパスを実現していきます。

寄付金額 ……単年／4,600,769円（2024年度に受領）
助成金額 ……3,898,175円
応募団体数 ……30団体
助成団体数 ……13団体
助成対象団体名（エリア）
- NPO法人ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY（東京都）
- Learning Crisis研究会（東京都）
- NPO法人Sisterhood（山形県）
- アトリエももも（長野県）
- NPO法人えんまる（長野県）
- NPO法人クローバーの会@やまがた（山形県）
- NPO法人ちいきむすび（東京都）
- NPO法人陽だまりの家（北海道）
- NPO法人防災コミュニティネットワーク（東京都）
- NPO法人マナビファクトリー（東京都）
- NPO法人みんなの（北海道）
- NPO法人レインボーリボン（東京都）
- NPO法人わかちあい練馬（東京都）

笑顔でつなぐ未来基金

日本全国の子どもたちを笑顔にする

PRF パブリックリソース財団 寄付適格認証

QUO CARD

寄付金つきQUOカード・QUOカードPayで団体の活動を応援

笑顔でつなぐ未来基金は、未来を担う子どもたちへの支援を通じて日本全国の子どもたちを笑顔にしたいという想いから、株式会社クオカードによって創設されました。同社が販売する「kids smile 笑顔でつなぐ未来基金」QUOカード・QUOカードPayの収益の一部が本基金に寄付され、国内で暮らす子どもたちの成長や暮らしを支援している非営利団体に助成金として交付されます。本基金では①子どもたちの未来の可能性を広げる活動②困難な状況にある子どもたちを支える活動③災害により被災した子どもたちを支える活動の3分野に焦点をあて、寄付適格認証団体（▶P.12）から支援先を選定しています。





基金設立者の声

株式会社クオカード
代表取締役社長
近田 剛様

当社では、2011年より東日本大震災被災地の子どもたちに笑顔を届ける活動への寄付つきQUOカードを発行してきましたが、近年各地で発生している自然災害や子どもを取り巻く状況をふまえ、日本全国の子どもたちを笑顔にしたいという想いから本基金を創設しました。これからも私たちは、QUOカード・QUOカードPayの発行を通じて、子どもたちの笑顔があふれる持続可能な社会の実現を目指していきます。

寄付金額 ……単年／7,003,687円
助成金額 ……単年／6,356,490円
助成団体数 ……3団体（寄付適格認証団体（▶P.12）から選定）
助成対象団体名（エリア）
- NPO法人芸術家と子どもたち（東京都）
- 公益社団法人難病の子どもとその家族に夢を（東京都）
- NPO法人日本教育再興連盟（東京都）

「野村グループ基金」みらい助成プログラム
社会課題の解決と新たな価値創造を目指して

NOMURA

先駆的で社会的インパクトのある取り組みを支援

[事業実施期間] 1年事業：2025年7月～2026年6月
2年事業：2025年7月～2027年6月

「野村グループ基金」みらい助成プログラムは、社会課題の解決と新たな価値創造を目指し、新たな事業や社会的インパクトのある事業に対して資金支援を行い、受益者のウェルビーイングや福祉の向上、社会の仕組みに大きな変化をもたらすことを目的としています。2025年度は次の3つの支援分野の中で、社会環境を踏まえてテーマを設定しました。

①社会の明日のために
「子どもへの学習・教育及び生活自立の支援」

②環境課題解決のために
「持続可能な森林の維持・保護・再生・育成の活動及び事業」

③文化の発展のために
「障がい者のアート活動の支援」


Chance For All 森のあそび場でのツリーハウス作りの様子

寄付金額…60,000,000円　応募団体数…90団体
助成金額…38,976,680円　助成団体数…7団体
助成対象団体名（エリア）
【支援分野①】
- 公益財団法人京都市ユースサービス協会（京都府）
- NPO法人ダイバーシティ工房（千葉県）
- NPO法人チームふくしま（福島県）
- NPO法人Chance For All（東京都）

【支援分野③】
- NPO法人Chance For All（東京都）
- 社会福祉法人視覚障害者文化振興協会（大阪府）
- 一般社団法人ヒトノネ（岐阜県）

基金設立者の声



野村證券株式会社
執行役員 ウェルス・マネジメント兼部店マネジメント担当、ウェルグローイング・インスティテュート担当
平野 和枝様

野村グループの「野村ウェルグローイング・インスティテュート」では、「人々の挑戦と成長の循環」を社会とグループ内の双方に実装する活動を推進しています。2023年度に設立した本基金を通じて、さまざまな社会課題の解決に取り組む団体への助成を継続的に行うことで、豊かな社会の実現に貢献してまいります。

未来につなぐふるさと基金
子どもたちの未来に緑豊かなふるさとを残す

未来につなぐ ふるさとプロジェクト

Canon キヤノンマーケティングジャパングループ

環境保全活動の専門性や継続性を高めることを応援

[事業実施期間] 2025年8月～2026年7月

未来につなぐふるさと基金は、キヤノンマーケティングジャパン株式会社により、同社グループが「生物多様性を育む社会づくりへの貢献」を行う取り組みの一つである「未来につなぐふるさとプロジェクト」の枠組みにおいて2013年度に創設されました。2024年度に公募プログラムの刷新を行い、生物多様性の損失に歯止めをかけ、豊かさを取り戻す流れをつくるために、NPO等の市民による環境保全活動を3年間にわたり支援しています。調査活動や管理計画・モニタリング計画の策定などを助成し、団体の専門性と持続可能性の向上を後押しすることで、多様な生き物を育む豊かな自然を次世代へ引き継ぐことを目指しています。


棚田LOVERSの活動の様子

寄付金額 ……単年／9,273,000円
助成金額 ……5,000,000円（2025年度分）
応募団体数 ……8団体
助成団体数 ……5団体
助成対象団体名（エリア）
【新規団体】
- NPO法人おおいた環境保全フォーラム（大分県）
- NPO法人棚田LOVERS（兵庫県）

【継続団体】（2年目）
- NPO法人河北潟湖沼研究所（石川県）
- NPO法人自然回復を試みる会ビオトープ孟子（和歌山県）
- NPO法人はちろうプロジェクト（秋田県）

基金設立者の声



キヤノンマーケティングジャパン株式会社
企画本部 サステナビリティ推進部 サステナビリティ推進第一課
柳原 滉太郎様

弊社グループでは、生物多様性保全を重要な社会課題の一つとして捉え、社会貢献活動の一環で取り組んでいます。本基金を通じた支援に加え、社員も活動へ参加し、自然共生サイトへの登録を目指す団体との協働を進めています。これまでに助成先団体が自然共生サイト登録を実現する成果も生まれています。今後も、生物多様性保全に取り組む団体との協働を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

休眠預金の活用
リサーチを踏まえた喫緊の社会的課題の解決に取り組む

弊財団は、これまで培ってきた基金運営や助成プログラムの経験と、社会的課題のリサーチを踏まえ、今、解決を求められる喫緊の社会的課題を抽出し、その課題解決につながる助成プログラムを提案することで、休眠預金活用制度の資金分配団体として2019年度より取り組んでいます。これまで、2019年度に通常枠2事業、2020年度に通常枠1事業とコロナ緊急枠1事業、2021年度に通常枠1事業、2022年度に通常枠1事業とコロナ緊急枠1事業、さらに2025年度は通常枠1事業と活動支援枠が採択され、のべ9つの助成プログラムを運営してきました。
これまで休眠預金を活用して取り組んできたテーマは、いずれも支援ニーズがありながらも、既存制度の狭間で取りこぼされてしまっている社会的課題領域にフォーカスしたものや、十分な支援を届けるための新しい仕組みづくりや、波及効果のある支援モデルの構築を目指すものです。
具体的には、さまざまな困難を抱える生活困窮者向けに“居住”と“必要とする支援”を提供するソーシャルビジネスとしての支援モデルの構築、子どもの貧困に取り組む支援団体の組織基盤強化、食支援の担い手のうち地域のハブとなりネットワークの中核となる支援団体の基盤強化、経済的に困窮する女性の緊急期から就労支援までの包括的な支援モデル構築などに取り組んでいます。
2025年度は新たに、2021年度に実施した子どもシェルター新設事業（第1フェーズ）の後継事業と、資金分配団体の空白地域に所在する組織を対象にした自立的な資金支援の担い手を育成する事業をスタートさせました。
こうした休眠預金を活用した助成プログラムに取り組むことで、新たな民間資金や公的資金を呼び込むことにつなげ、既存の制度や仕組みを変えていくことを目指しています。

休眠預金活用とは

10年以上取引のない休眠預金等を、子どもや若者への支援や生活を営む上で困難を有する者への支援、地域活性化への支援のために活用する制度です。
「休眠預金活用事業 情報公開サイト」では、弊財団採択事業も含めたすべての休眠預金を活用した事業や団体の情報を検索することができます。

休眠預金活用事業　終了事業（2025年度末時点）

- 支援付き住宅建設・人材育成事業（2019年度通常枠）
  実行団体数 3団体　事業実施期間 2020年11月～2023年3月
- 中核的フードバンクによる地域包括支援体制（2020年度通常枠）
  実行団体数 5団体　事業実施期間 2021年7月～2024年3月
- 子ども支援団体の組織基盤強化（2019年度通常枠）
  実行団体数 4団体　事業実施期間 2020年4月～2023年3月
- コロナ禍の住宅困窮者支援事業2（2022年度コロナ緊急支援助成枠）
  実行団体数 4団体　事業実施期間 2023年4月～2024年2月
- コロナ禍の住宅困窮者支援事業（2020年度コロナ緊急支援助成枠）
  実行団体数 4団体　事業実施期間 2021年9月～2022年2月
- 子どもシェルター新設事業（2021年度通常枠）
  実行団体数 3団体　事業実施期間 2021年10月～2025年3月

各休眠預金事業の成果報告等の詳細はこちら
https://www.public.or.jp/projects
基金のご紹介 ▶ 休眠預金 選択

様々な困難で困窮する女性の経済的自立支援事業（2022年度通常枠）

本事業は、DVや虐待、生活困窮、住居喪失等のさまざまな困難を抱える女性を対象に、緊急期支援から居住生活基盤の整備、生活支援、就労支援までの切れ目のない支援を通じて、女性の自立を図る包括的支援モデルの構築を目指すものです。

2025年度は、6つの実行団体に対して資金助成を行うとともに、資金調達や評価活動、人材育成等に関する伴走支援を実施し、各団体の事業推進及び組織基盤の強化を図りました。また、各実行団体の取組や成果、課題を広く共有するため、実行団体ごとにテーマを設定したオンラインセミナー（活動報告会）を全5回開催しました。さらに、事後評価ワークショップの実施や3年間の取組の振り返りを通じて、困難を抱える女性への包括的支援モデルや支援のあり方、実践に共通する価値や視点を整理し、今後の女性支援の充実と普及に向けた基盤づくりを進めました。

実行団体ごとオンラインセミナー（活動報告会）の開催報告はこちら ▶

本事業の成果に関する報告はこちら ▶



2025年8月事後評価ワークショップ開催の様子

受入助成金額 …… 38,326,768円（2025年度分）
助成金額 …… 61,047,946円（2025年度分）
応募件数 …… 20件
助成対象団体名（エリア）
- NPO法人くまもと相談所（熊本県）
- NPO法人さくらんぼ（神奈川県）
- 認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ（兵庫県）
- NPO法人全国ひとり親居住支援機構（神奈川県）
- NPO法人ささえる（愛媛県）
- 認定NPO法人ピッコラーレ（東京都）

※2025年度都補助事業採択につき支援終了

子どもシェルター新設事業 第2フェーズ（2025年度通常枠）

※子どもシェルター全国ネットワーク会議とのコンソーシアム

本事業は、2021年度に実施した「子どもシェルター新設事業（第1フェーズ）」の後継事業です。虐待や複雑な家庭環境の問題で安全な居場所を失いながらも、既存の公的支援制度の狭間に置かれ、必要な支援を受けられない10代後半の子ども・若者を対象としています。こうした困難を抱える10代後半の子ども・若者の緊急避難先として民間の子どもシェルターを位置付け、3年間の事業期間中に新たに4箇所を開設します。将来的には、社会的養護制度の狭間で居場所を失った子ども・若者へ十分なセーフティーネットが行き届く地域・社会の実現を目指します。※2025年10月に採択、事業実施期間は2025年12月～2029年3月31日

社会課題分野及び空白地域における自立的資金分配団体の創生支援事業（2025年度活動支援枠）

本事業は、特定の社会課題分野で活動する中核的団体や中間支援組織、資金分配団体の空白地域に所在する資金仲介組織を対象に、自立的な資金支援の担い手を育成する事業です。組織診断や研修（全10回）、メンターによる伴走支援を通じて、助成プログラム開発、公募審査、伴走支援、事業評価、出口戦略などの実践的なノウハウの習得を支援します。将来的には、支援対象団体が休眠預金活用事業における2027年度の資金分配団体への申請を目指すとともに、自立的に資金調達を行い、助成事業を通じて社会的インパクトを生み出し続けることを目指します。※2025年12月採択、事業実施期間は2026年2月～2028年2月29日

Special Thanks（期間：2025年4月1日～2026年3月31日／敬称略）

賛助会員および財団運営へのご寄付
- 池田 真市
- 蛯名 喜代作
- 公益社団法人助成財団センター
- 鯛車復活プロジェクト 野口基幸
- 株式会社大和証券グループ本社
- 松田 宏一
- 茂木 義三郎
- 山田 直子
- 他 匿名2件

池田真市 子ども食堂基金へのご寄付
- 池田真市

移民・難民支援基金へのご寄付
- 匿名1件

上村清子＆幸男結核予防基金へのご寄付
- 上村 幸男

笑顔でつなぐ未来基金へのご寄付
- 株式会社クオカード

感動体験支援基金へのご寄付
- 一般社団法人プロジェクト希望

寄付適格認証団体を指定したご寄付
- のべ2,248名のオンライン寄付者
- 砂田 孝子
- 他 匿名2件

塩沼亮潤 大阿闍梨基金へのご寄付
- のべ111名のオンライン寄付者
- 他 匿名3件

謝縁教育基金へのご寄付
- 角方 正幸

女性リーダー支援基金 ～一粒の麦～ へのご寄付
- のべ54名のオンライン寄付者
- 上野 千鶴子
- 牧野 洋子
- 龍治 玲奈

大和証券グループ サンタチャリティプログラムへのご寄付
- のべ1,675名の大和証券グループ役職員・OB・OG

ダイワ・フローリッシュ募金を通じてのご寄付
- のべ49名のオンライン寄付者

棚田基金へのご寄付
- 匿名1件

匿名基金Aへのご寄付
- 匿名1件

野村グループ基金へのご寄付
- 野村ホールディングス株式会社

NOBUKO基金へのご寄付
- 匿名1件

フコク生命THE MUTUAL基金へのご寄付
- のべ74名のオンライン寄付者
- 富国生命保険相互会社

富士子基金へのご寄付
- 赤間 誠

三菱食品 これからの100年基金へのご寄付

- 三菱食品株式会社

Music Cross Aid -ライブエンタメ従事者支援基金-へのご寄付

- のべ160名のオンライン寄付者
- 他 匿名1件

未来につなぐふるさと基金へのご寄付

- キヤノンシステムアンドサポート株式会社
- キヤノンマーケティングジャパン株式会社

武藤敏基金へのご寄付

- 武藤 已子

ゆきぐにの未来基金へのご寄付

- のべ285名のゆきぐに信用組合の組合員
- ゆきぐに信用組合
- ゆきぐに信用組合店頭募金箱を通じた寄付者

Y'sファンド D&I基金へのご寄付

- 匿名1件

助成事業選考委員等

※ご所属・お役職は委嘱当時のものです

- 有森 直子（新潟大学大学院保健学研究科教授）
- 伊井 哲朗（コモンズ投信株式会社 代表取締役社長）
- 今村 亮（株式会社DISCOVERY STUDIO代表取締役）
- 上野 千鶴子（社会学者／東京大学名誉教授／認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長）
- 植野 ルナ（公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会事業企画課長）
- 内田 幹夫（魚沼市長）
- 梅津 茂巳（一般財団法人ふくしま未来研究会）
- 江崎 久代（三菱食品株式会社「これからの100年プロジェクト」実行委員（社会向け施策担当））
- 及川 美紀（一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ理事）
- 小河 光治（公益財団法人あすのば代表理事）
- 岡田 妙子（NPO法人バディチーム代表理事）
- 岡本 拓也（千年建設株式会社代表取締役社長／NPO法人LivEQuality HUB代表理事）
- 奥田 知志（認定NPO法人抱樸理事長／日本パプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師）
- 奥山 千鶴子（認定NPO法人びーのびーの理事長）
- 小野澤 一成（ゆきぐに信用組合理事長）
- 小野田 全宏（静岡県ボランティア協会理事長）
- 影山 秀人（NPO法人子どもセンターてんぽ副理事長／弁護士）
- 鴨崎 貴泰（NPO法人日本ファンドレイジング協会常務理事）
- 河合 将生（NPO組織基盤強化コンサルタント／office musubime代表）
- 川井田 祥子（鳥取大学教授）
- 川那部 留理子（大和証券グループ本社サステナビリティ推進部長）
- 粉川 一郎（武蔵大学社会学部長、メディア社会学科教授、グローバル・データサイエンスコース主任）
- 小木曽 麻里（SDGインパクトジャパンCo-CEO）
- 小林 翼（キヤノンマーケティングジャパン サステナビリティ推進部部長）
- 小安 美和（株式会社Will Lab代表取締役）
- 近藤 恵（NPO法人全国女性シェルターネット理事）
- 塩沼 亮潤（慈眼寺住職／大阿闍梨）
- 杉本 大輔（全国難民弁護団連絡会議事務局）
- 鈴木 江理子（国士舘大学文学部教授）
- 関 健志（日本ナショナル・トラスト協会事務局長）
- 鷹野 秀征（一般社団法人新興事業創出機構（JEBDA）理事長／ソーシャルウインドウ株式会社代表取締役）
- 高橋 亜美（社会福祉法人子供の家 ゆずりは 所長）
- 竹内 弓乃（NPO法人ADDS共同代表）
- 谷垣 浩司（野村ホールディングス株式会社執行役員 グループ広報担当／野村證券株式会社常務 広報担当）
- 玉野 まりこ（NPO法人子どもセンターぬっく理事長）
- 田村 太郎（一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事）
- 中鉢 博之（NPO法人ビーンズふくしま理事長）
- 土屋 佳子（日本社会事業大学専門職大学院非常勤講師）
- 中村 陽一（一般社団法人デザイン・ビジネスラボ代表理事／立教大学名誉教授）
- 西田 治子（一般社団法人Women Help Women代表理事／オフィス・フロネシス代表）
- 能條 桃子（一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN代表理事／FIFTYS PROJECT代表理事）
- 萩原 なつ子（独立行政法人国立女性教育会館理事長／立教大学名誉教授）
- 長谷川 雅子（一般財団法人CSOネットワーク代表理事）
- 浜田 敬子（ジャーナリスト）
- 林 大介（東洋大学 福祉社会デザイン学部社会福祉学科准教授）
- 林 恵子（認定NPO法人ブリッジフォースマイル理事長）
- 林 茂男（南魚沼市長）
- 番野 智行（NPO法人ETIC. ソーシャルイノベーション事業部マネージャー、事業統括）
- 日詰 一幸（静岡大学学長）

- 平井 一夫（一般社団法人プロジェクト希望代表理事）
- 広岡 真生（川崎市健康福祉局リハビリテーション推進センター総務判定課長）
- 古瀬 繁範（NPO法人地球と未来の環境基金理事長、事務局長）
- 三島 理恵（認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長）
- 宮本 みち子（放送大学客員教授／千葉大学名誉教授）
- 目加田 説子（中央大学総合政策学部教授）
- 茂木 義三郎（元公益財団法人三菱財団常務理事）
- 山根 健治（セイコーエプソン株式会社総務部課長）
- 吉田 樹（福島大学経済学部教授、学長補佐）
- 吉原 志麻（NPO法人フェアスタートサポート コーディネーター）
- 米山 広明（一般社団法人全国フードバンク推進協議会代表理事）
- 米田 佐知子（子どもの未来サポートオフィス代表）
- 李 炯植（認定NPO法人 Learning for All代表理事）
- 鷲谷 いづみ（生物学者／東京大学名誉教授）
- 渡辺 元（公益財団法人助成財団センター理事）

資産運用委員

※ご所属・お役職は委嘱当時のものです

- 安藤 敏毅（独立行政法人国際交流基金監事（非常勤））
- 片山 正夫（公益財団法人セゾン文化財団会長）
- 小林 弘幸（牛久市環境経済部シャトー再生推進課主任）
- 瀬尾 周一（ビジネス・ジャパン株式会社代表取締役）

専門家／協力機関

※2026年9月現在

- 株式会社IFA Leading
- 合同会社MKRマネージメント
- イマニシ税理士法人
- 一般社団法人Women Help Women
- 株式会社クオカード
- 工藤税理士事務所
- グローシップパートナーズ株式会社
- 株式会社GENAU
- けやき野司法書士法人
- 公益財団法人公益法人協会
- 子どもシェルター全国ネットワーク会議
- 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会
- サン・クリエイティブ株式会社
- ZAN FILMS
- NPO法人CRファクトリー
- 公益財団法人助成財団センター
- 株式会社STYZ
- 一般社団法人全国レガシーギフト協会
- ソーシャルピーアール・パートナーズ株式会社
- Tara Climate Foundation
- 株式会社帝国データバンク
- Dee Marketing株式会社
- 公益財団法人トラスト未来フォーラム
- 弁護士法人中村綜合法律事務所
- 一般社団法人日本音楽事業者協会
- 一般社団法人日本音楽制作者連盟
- 公益社団法人日本自然保護協会
- 認定NPO法人日本ファンドレイジング協会
- 一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
- 根岸人事労務事務所
- 一般財団法人ふくしま未来研究会
- プラッサ法律事務所
- 認定NPO法人ブリッジフォースマイル
- 一般社団法人プロジェクト希望
- ほがらか信託株式会社
- 三井住友信託銀行株式会社
- ヤフー株式会社
- 山田税務会計事務所
- ユニオン映画株式会社
- 認定NPO法人 Learning for All
- ランドマーク税理士法人

組織体制 (2026年8月現在)

理事

久住　剛 …… 公益財団法人パブリックリソース財団　代表理事・理事長
岸本 幸子 …… 公益財団法人パブリックリソース財団　代表理事・専務理事
角方 正幸 …… 株式会社リアセック　キャリア総合研究所　所長
片山 正夫 …… 公益財団法人セゾン文化財団　会長
黒田 由貴子 …… 株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング　顧問・ファウンダー
関　和寛 …… 公益財団法人パブリックリソース財団
溜箭 将之 …… 東京大学法学部　教授
西田 治子 …… 一般社団法人Women Help Women　代表理事、オフィス・フロネシス　代表

評議員

秋葉　武 …… 立命館大学産業社会学部　教授
太田 達男 …… 公益財団法人公益法人協会　名誉会長
岡野 貞彦 …… 株式会社岡三証券グループ社外取締役（監査等委員）、元公益社団法人経済同友会　事務局長
勝又 英子 …… 公益財団法人日本国際交流センター（JCIE）コー・ファウンダー＆フェロー
河口 眞理子 …… 立教大学　特任教授
鷹野 秀征 …… 一般社団法人新興事業創出機構（JEBDA）　理事長
田﨑 博道 …… 公益財団法人日本陸上競技連盟　専務理事
永久 寿夫 …… 名古屋商科大学経済学部　教授、学校法人嘉悦学園　理事長
中村 陽一 …… 立教大学　名誉教授
前田 和敬 …… 公益財団法人日本生産性本部　理事長
山崎 富一 …… NPO法人笑顔せたがや　理事長
湯瀬 秀行 …… 公益財団法人助成財団センター　主査

監事

藤田　寛 …… 元・日本政策投資銀行
本郷 順子 …… 本郷順子税理士事務所　税理士

顧問

雨森 孝悦 …… 日本福祉大学福祉経営学部　名誉教授
水口　剛 …… 高崎経済大学　学長
由良　聡 …… エフピースクウェア　代表

名誉顧問

今田　忠　　播磨 靖夫

スタッフ 18名

渡辺　裕 …… チーフプログラムオフィサー
鵤原 佳奈 …… プログラムオフィサー
渡邉 由佳 …… プログラムオフィサー
守随 吉弘 …… プログラムオフィサー
山本 香苗 …… プログラムオフィサー
坂口 由美 …… プログラムオフィサー
鎌田　淳 …… プログラムオフィサー
安倍 瑞枝 …… プログラムオフィサー
森内 大樹 …… プログラムオフィサー
山﨑 庸貴 …… プログラムオフィサー
中村 光宏 …… プログラムオフィサー
田中　徹 …… アシスタントプログラムオフィサー
小澤 千津子 …… アシスタントプログラムオフィサー
谷藤　優 …… アシスタントプログラムオフィサー
秋月 啓子 …… アシスタントプログラムオフィサー
関　和寛 …… 総務担当
鈴木 奈緒美 …… 経理主任・管理担当
横田 晴香 …… 経理・管理担当

シニアフェロー

伊藤 美歩　臼井　清　河合 将生　佐野 直哉　藤本 貴子　坪内　南
今給黎 辰郎　河合 哲朗　佐藤 宏美　堤　大介　藤本 直孝

決算報告

正味財産増減計算書 【2025年4月1日から2026年3月31日まで】

（単位：千円）

			2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
一般正味財産増減の部	1. 経常収益	事業収益	2,787	3,227	7,154	7,896	6,030
		寄付金収益	419,303	324,126	256,060	393,769	595,639
		（うち一般寄付金）	(31,442)	(10,946)	(18,704)	(10,527)	0
		受取助成金	122,207	271,681	635,488	160,994	656,450
		受取賛助会費	262	240	638	120	70
		その他収益	1,828	558	2,618	6,870	5,454
		合計	546,387	599,833	901,961	569,649	1,263,643
	2. 経常費用	事業費	526,604	592,114	895,936	553,585	1,259,268
		（うち支払助成金）	(381,916)	(401,294)	(752,062)	(433,301)	(1,097,303)
		（うち物品寄贈）	(0)	(0)	(4,109)	(5,157)	(3,308)
		管理費	9,737	6,657	6,209	8,187	4,877
		合計	536,341	598,772	902,146	561,772	1,264,144
	当期経常増減額		10,046	1,061	▲ 185	7,877	▲ 502
	当期経常外増減額		0	0	1,427	112,397	522
	当期一般正味財産増減額		10,046	1,061	1,242	120,275	20
	一般正味財産期首残高		123,489	122,428	121,186	911	891
	一般正味財産期末残高		**133,536**	**123,489**	**122,428**	**121,186**	**911**
指定正味財産増減の部	受取指定寄付金		313,080	362,479	633,439	276,104	447,685
		（うち受取寄付物品）	(0)	(0)	(4,782)	(5,792)	(3,885)
		（うち運用型基金有価証券等への振替額）	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	受取指定助成金		121,626	99,802	122,956	915,127	161,378
	受贈土地建物		0	0	0	0	0
		（うち運用型基金有価証券への振替額）	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	運用型基金有価証券等		11,359	11,294	21,900	0	0
	一般正味財産への振替額		▲ 510,068	▲ 584,860	▲ 876,878	▲ 724,756	▲ 1,252,338
	特定資産（運用型基金有価証券等へ）の振替額		0	0	0	0	0
	指定寄付金返還金		0	0	2,023	0	0
	特定資産売却益		4,818	0	0	2,951	0
	特定資産評価損益等		113,709	0	0	▲ 37,478	14,707
	当期指定正味財産増減額		54,525	▲ 111,284	▲ 96,558	431,949	▲ 628,568
	指定正味財産期首残高		1,570,741	1,682,026	1,778,585	1,346,636	1,975,204
	指定正味財産期末残高		**1,625,266**	**1,570,741**	**1,682,026**	**1,778,585**	**1,346,636**
	正味財産期末残高		1,758,802	1,694,231	1,804,454	1,899,771	1,347,547

貸借対照表 【2026年3月31日現在】

（単位：千円）

			2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
資産の部	1. 流動資産	現金預金	126,577	126,324	114,505	149,901	1,917
		未収金	633	1,322	459	338	2,570
		前払費用	2,206	575	624	591	630
		その他流動資産	66	64	65	62	17
		合計	129,482	128,287	115,655	150,892	5,134
	2. 固定資産	基本財産	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		特定資産	1,622,266	1,567,741	1,679,026	1,775,585	1,343,636
		その他固定資産	8,360	10,811	12,232	7,000	728
		合計	1,633,626	1,581,552	1,694,258	1,785,586	1,347,364
		資産合計	**1,763,108**	**1,709,840**	**1,809,914**	**1,936,477**	**1,352,498**
負債の部	1. 流動負債	未払金	1,657	334	320	26,546	1,650
		未払費用	597	560	1,819	542	79
		預り金	961	1,299	2,159	1,374	948
		その他流動負債	1,091	13,414	1,159	8,245	2,273
		合計	4,306	15,608	5,459	36,706	4,950
		負債合計	**4,306**	**15,608**	**5,459**	**36,706**	**4,950**
正味財産の部	1. 指定正味財産	指定寄付金基金	640,793	920,701	870,118	471,613	691,147
		運用型基金	852,860	517,463	506,168	486,874	524,137
		休眠預金助成金	118,103	132,459	305,238	820,098	131,351
		その他特定資産	13,509	116	500	0	0
		指定正味財産合計	1,625,266	1,570,741	1,682,026	1,778,585	1,346,636
		（うち基本財産への充当額）	(3,000)	(3,000)	(3,000)	(3,000)	(3,000)
	2. 一般正味財産	一般正味財産合計	133,536	123,489	122,428	121,186	911
		正味財産合計	**1,758,802**	**1,694,231**	**1,804,454**	**1,899,771**	**1,347,547**
負債及び正味財産合計			1,763,108	1,709,840	1,809,914	1,936,477	1,352,498